

いわて 幸福白書 2026

第1部

令和8年の幸福トレンド

若者達が抱く不安や期待に、地方はどう応えていくのか

国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部長 岩澤美帆氏

本がもたらす幸せを、文化の力を信じたい

小説家 阿部暁子氏

— 幸福度を高める身近な取組 —

より多くの経験と選択肢を子どもたちに与えてあげたい

NPO法人ハナレヤ 内田祐貴氏

豊かな森林資源を守りながら未来のためにできることを

合同会社ライトリソース 上野早紀氏

第2部

「希望郷いわて」の今

第3部

データ編

岩手県



お互いに幸福を守り育てる 世界に開かれたいわてに

八幡平市 岩手山



岩手県の総合計画「いわて県民計画（2019～2028）」は、広く意見をうかがいながら、「オール岩手」で策定した計画であり、行政だけではなく、関係団体や企業、NPOなど多様な主体が10年後の将来像を共有し、それぞれの主体が自ら取組を進めていくためのビジョンとなるものです。

岩手県では、広範な地域に甚大な被害をもたらした東日本大震災津波からの復興に当たり、「一人ひとりの幸福追求権の保障」を原則の一つに掲げ、県民一丸となって取組を進めてきました。「いわて県民計画（2019～2028）」のもと、こ

した復興の実践で学び、培ってきた「一人ひとりの幸福を守り育てる」姿勢を県政全般に広げるとともに、物質的・経済的な豊かさに加え、心の豊かさを大切に、一人ひとりの暮らしや仕事に着目した施策の推進と、東日本大震災津波からの復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てることで、県民一人ひとりが希望を持つことのできる「希望郷いわて」を目指していくこととしています。「いわて幸福白書」は、こうした考えのもと、幸福度の向上につながるトレンドや、国内外における「幸福」をめぐる動きを御紹介するとともに、県の施策や今

後の方向について広くお伝えするものです。

いま、インバウンド観光や農林水産物・食品の輸出の増加に表れているように、豊かな自然と歴史に育まれた、食文化に代表される、日本の質の高い生活文化が世界各地で求められています。

日本の質の高い生活文化は、主に地方で育まれてきたものであり、岩手における質の高い生活文化は、質の高い農林水産物、工業製品、サービスやクリエイティブの基盤であり、魅力的な地域づくりの基盤です。

これらの価値や魅力を発信し、世界に開かれた地方創生を進めていくことが、若者・女性に選ばれる岩手の実現や、県民の幸福・ウェルビーイングを高めることにつながります。

岩手の先人、宮沢賢治は「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」という言葉を残しています。

時代の潮流やチャンスをつかるとともに、「他人とのかかわり」や「つながり」を大切にする岩手県ならではの社会観を生かしながら、「お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて」を目指し、みんなで行動していきましょう。

宮古市 浄土ヶ浜

もくじ INDEX

P.2

はじめに

P.5

第1部 令和8年の幸福トレンド

有識者等から、幸福に関する国の動きや最新研究等も踏まえ、令和8年の幸福トレンドについて、論じていただきます。

INTERVIEW.1 「若者達が抱く不安や期待に、地方はどう応えていくのか」

国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部長 岩澤 美帆 氏

INTERVIEW.2 「本がもたらす幸せを、文化の力を信じたい」

小説家 阿部 曉子 氏

幸福度を高める身近な取組

県民総参加による幸福度の向上につながる取組の更なる推進に向けて、県内で幸福度を高める取組を行っている方々を御紹介します。

INTERVIEW.1 「より多くの経験と選択肢を子どもたちに与えてあげたい」

NPO法人ハナレヤ 内田 祐貴 氏

INTERVIEW.2 「豊かな森林資源を守りながら未来のためにできることを」

合同会社ライトリソース 上野 早紀 氏

P.23

第2部 「希望郷いわて」の今

“県民の幸福感の現状”として、県民意識調査の調査結果を紹介します。また、“県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果”として、「いわて県民計画（2019～2028）」に掲げる10の政策分野の政策評価結果を紹介します。

P.55

第3部 データ編

第2部で使用したデータを一覧で紹介いたします。



岩手県 北上市 展勝地

第1部

令和8年の
幸福トレンド

いわて幸福白書
2026



若者達が抱く不安や期待に、 地方はどう応えていくのか



国立社会保障・人口問題研究所 人口動向研究部長

岩澤 美帆

いわさわ みほ

東京大学文学部社会学科卒業後、同大学院総合文化研究科博士号(学術)を取得。専門は社会人口学、家族社会学。1997年、国立社会保障・人口問題研究所に入所後、米国ウィスコンシン大学人口・生態学センター客員研究員を経て、2019年より現職。「出生動向基本調査」「日本の将来推計人口」事業を担当。

地方はもとより、日本全体の少子化や人口減少に歯止めがかかりません。出生数も年々減少しており、その原因を「結婚や出生に対する意欲の低下」と岩澤美帆さんは分析します。先行きの不透明な時代に、結婚・子育て・仕事の狭間で揺れる若い世代を、社会はどのように受け止め、支援していくのか。地方が果たす役割について、岩澤さんに伺いました。

—— 地方では、依然として人口減少に歯止めがかからない状況です。これについて、どのような見通しをお持ちですか。

岩澤 今日少子化や人口減少の問題は、実は文明史・人類史といった視点で語ってもいいほど、大きな話でもあります。そもそも動物は自分の遺伝子をいかに残すか、という生き物であり、人類が誕生し、文明が発達するにつれて、子の生存率を高めるためにコミュニティ(集団)で子を育てるようになりました。しかし、現代はそれだけでは育児に不安があったり、コミュニティで育てること自体に煩わしさを感じ、「自由」や「個人」を尊重するようになってきている傾向が見られます。多くの人は、日々、自分にとって最良と思える行動をとっており、その結果、誰も望んだわけではないのですが、少子化、人口減少が起きてしまいました。こうした個々の判断が本当に本人にとって最良なものであったのかは、分からない部分もあります。人間の欲求は社会が成熟するにつれて、より質を重視する高次元の欲求に移っていきます。経済活動や個人の自由を追求する生活に限界を感じて、結婚や出産の価値が再び見直されることがあるかもしれません。こうした状況の中、地方の暮らしに目が向けられたとき

に、その希望や期待を地方社会が受け止められるかどうか、今後の重要なポイントだと思います。

—— 2024年に日本で生まれた日本人の子ども数は、統計のある1899年以降、初めて70万人を割りましたが、この出生数の減少の原因について、どのように分析していますか。

岩澤 出生数の減少については、大きく3つの要因があります。1点目は、子どもを産める年齢の女性人口の規模です。2点目は、外的要因によるもので、例えば大震災やコロナ禍では、結婚や出産が一時的に控えられることがありました。そして3点目が、女性1人当たりの子ども数の変化です。考え方やライフスタイルの変化、子どもを産み育てる環境における不具合など、即座には解消しがたい要因によって、出生数が減少しています。女性人口の減少は、以前からある程度想定されていたことですが、それに加え、2020年以降のコロナ禍をきっかけに婚姻が大きく落ち込みました。そして、コロナ禍がある程度収束した現在も回復は見られません。実は、コロナ禍以前の2015年頃から結婚や出生の低迷は始まっており、こうした2010年代からの出生の低迷は、欧米など他の高所得国でも見られる傾向

です。欧州などでは、この時期、国際紛争などがより身近に感じられたことや、世界的な気候変動に関心が高まったことで、未来社会に対する不透明感や不安感が高まり、出生意欲の低下につながったと指摘されています。

日本においては、2000年代以降に生まれた、数の少ない女兒が、20年を経て子どもを生む年齢に達したのですが、これまでよりも少ない人口集団を形成しています。その上で、コロナ禍前から結婚や出生の意欲が低下し始めていたこと、そこにコロナ禍の衝撃が加わり、未曾有の出生数の落ち込みが起きたと考えられます。

—— 結婚意欲や出生意欲が低下しているということですが、その原因は何でしょうか。

岩澤 結婚意欲や出生意欲が高所得国全体で低下している背景として、共通に指摘されているのは、子育ての経済的・精神的コストが高いというものです。日本や東アジアでは、高等教育に対する私費負担の多くが親の負担となる傾向があります。また、「突然の用事のために育児ができないとき、誰に援助を頼みますか」といった調査を行ったところ、日本では親せきや友人、近所の人などを頼れる割合が低いことが分かりました。

20代・30代は「人生のラッシュアワー」。この慌ただしい時期にこそ、人生設計と向き合う機会を。



しかし近年は、欧米でも子育ての負担感が増しているという指摘があります。これは物価上昇などの実質的な負担増もありますが、子育てに対する態度の変化も関係しています。例えば「インテンシブ・ペアレンティング（徹底育児）」と呼ばれる、子育てに全力を尽くすという近年の考え方です。「良き親」にならなければいけないというプレッシャーが高まっており、子育てに金銭や時間を徹底的にかけることで負担感が増し、そうした子育てを若い人が見て、自分には無理だと考え、結婚や子育て離れが起きていると分析されています。子どもを大切に思い優先する、という考えは非常に尊いことですが、それによって親が追い詰められてしまうことは問題です。このように親が追い詰められてしまう背景には、時代の変化が加速し、未来に対する不確実性の高まりから、子どもの将来を不安に思い、あらゆる選択肢を与えておきたいという気持ちの変化も関係し

ていると考えられます。また最近では、結婚した夫婦が期待通りの子ども数を持っていないということも明らかになっています。

—— 「夫婦が期待通りに子どもを持ってない」という点について、詳しく教えてください。

岩澤 日本の40代後半の夫婦を調べたところ、結婚時に予定していた子どもの数に対して、その水準に達していた夫婦は7割しかいないことが分かりました。この一番の原因は、結婚年齢の上昇であると考えています。結婚年齢が上昇すると、子どもが欲しいと思った時にはなかなか妊娠できず、不妊治療を経験している方も調査ごとに増えています。現代の20代から30代前半の時期は、家族のことだけではなく、仕事やキャリアのことなど、一度に多くの課題が押し寄せ、時間的な余裕がなく、選択や優先順位の判断が難しい時期となります。このような時

期は「人生のラッシュアワー」と呼ばれ、結婚年齢の上昇の要因として考えられます。

—— 「人生のラッシュアワー」というキーワードは非常に興味深いですね。

岩澤 「人生のラッシュアワー」は日本だけでなく、高所得の国全般に当てはまります。男女とも大学に進学する人が増え、学業を終えるのが20代前半です。より待遇の良い働き場所を求めて競争し、就職した後もより良いキャリアを目指して仕事に没頭する人が少なくありません。一方、この時期は人生のパートナーを見つけ、家族の生活基盤を築く時期とも言えます。しかし、人口減少時代に突入し、人手不足の中、20代・30代の仕事の負担は大きくなっており、本当は個人の生活を優先したいと思いつつも、現実には仕事を優先してしまう若者が、日本はフランスやスウェーデン、ドイツに比べて多い傾

向があります。現在の20代・30代には、「タイプ（タイムパフォーマンス）」と呼ばれる効率重視の考え方が浸透しています。この考え方は、ときに時間のかかる「行きつ戻りつ」といった人間関係の構築や恋愛でさえも「タイプの悪い行為」に感じてしまいます。また、子どもは本来、非合理的な行動をするものですが、その世話をするという子育ても「タイプ」の観点からはデメリットが大きいと感じられてしまいます。実際には、その効率の悪さにこそ「幸福」が隠れていることもあるのですが、それを経験するまでは、否定的なイメージが先行して、「タイプの悪い行為」として躊躇してしまうことがあるようです。

—— 「人生のラッシュアワー」を上手に乗り越えるための考え方や必要なサポートについて教えてください。

岩澤 こども家庭庁なども着目している3点をご紹介します。1点目は、人生設計のサポートです。日本の若い男女に、「あなたは「将来、自分が子どもを持つのか持たないのか」といった観点からの人生設計（ライフプラン）につい

て、あなたはどの程度考えたことがありますか」と問うと、「あまり考えたことがなかった」という回答が諸外国に比べて高かったのです。また、結婚当初、子どもの数を具体的にイメージしていなかった夫婦ほど、実際に持った子ども数が少ないことも分かりました。就職をすると、仕事に関する知識は格段に増えていきますが、妊娠や出産に関する知識を学んだり、自身の人生設計を考えたりする機会は意外に多くはありません。そのため、「プレコンセプション・ケア」といった妊娠前の必要な知識の普及やライフデザイン支援が必要です。晩婚化や晩産化は、選択肢が無かったのではなく、選択肢があつたのに知らなかった、気づかなかったという問題であるとも言えます。2点目は、結婚支援です。日本は1970年代頃までは、様々な出会いの場や紹介の仕組みが社会に用意されており、結婚の黄金期を迎えていました。しかしその後、お見合い文化や職場結婚文化というのが衰退し、学校での出会いや友人の紹介といった場に限定されてきました。就職してからは日常生活の中でパートナーを見つけることが極めて難しくなっています。ただし、2010年代後半から、マッチン

グアプリの活用やオンラインでの交流を通じて出会うというルートが開かれ、結婚相談所の利用も復活しました。その中には、自治体が主導する結婚支援事業も含まれ、生活の場では出会いがない男女にとって、信頼できる相談所やマッチングイベントなどは、限られた時間の中で効率的にパートナーと出会う貴重な機会となっています。3点目が、子どもを育てる想像力や経験知を高める機会の提供です。現代は、きょうだい数が少なく、近所の年齢の離れた子どもと触れ合う機会も限られています。子どもと触れ合う経験がある人の方が、結婚や出産に前向きになるという傾向が調査で明らかになっており、国の支援を活用して子どもが赤ちゃんなどと触れ合う機会を設ける自治体も増えてきました。こうした人生設計や経験の支援が有効であるとしても、子育てにおいて様々な困難があることは事実です。経済活動に費やされている時間を、いかに家族のための時間に振り向けるか、近年急速に発達しているAIなども活用しながら、社会全体で取り組む必要があります。

—— 最後に、岩手県に対するメッセージをお願いします。

岩澤 岩手県が掲げる「一人ひとりの幸福」という視点は、将来を不安に思う若者にとっても非常に魅力的であると思います。地域社会のために人が存在するのではなく、人の幸福があって、地域社会の幸福も成り立つ、という発想が今こそ必要だと感じます。



インタビュアー
おだまいこ
小田舞子

「日経xwoman」編集委員、岩手県総合計画審議会委員(2022年～)。1978年生まれ、岩手県盛岡市育ち。国際基督教大学卒業後、日経BPに入社。「日経ビジネス」「日経ビジネスアソシエ」編集記者を経て2024年より現職。20～30代の女性に向け多様な働き方、生き方を提案。「いわて銀河プラザanecco」のボランティア活動にも積極的に取り組む。

Interview.2

本がもたらす幸せを、文化の力を信じたい



全国の書店員が「最も売りたい本」を選ぶ『2025年本屋大賞』で、阿部暁子さんの『カフネ』（講談社）が大賞に輝きました。著者である阿部さんは、岩手県花巻市出身で、現在も岩手で執筆活動を行っています。『カフネ』で人と食が繋ぐ温かな関係を描いた阿部さんに、ご自身が考える幸福や故郷である岩手のことについて伺いました。

—— 『カフネ』の本屋大賞受賞、誠におめでとうございます。本県出身者の受賞ということで、県民も沸き立つような気分になっているかと思えます。受賞から少し時間が経ちましたが、今現在のお気持ちをお聞かせください。

阿部 ありがとうございます。受賞発表の直後はなかなか実感も湧かず、ちょっと足が地面から数ミリ浮いているような、ふわふわした感じでしたが、最近は、少し気持ちも落ち着いてきました。とても光栄な賞をいただいたので、次にもっと面白いものを書くにはどうしたらいいだろうか、ということを考えて始めています。

—— 受賞後、生活に変化がでてきたことなどはありますか？

阿部 あまり変わらないですね。スーパーの広告で安い品があったら喜んで買いに行ったり、今までどおりに生活しています。

—— 作品タイトルである『カフネ』という言葉の意味は、「愛する人の髪をそっと触れる」というしぐさを指すようですが、このタイトルへの思いを教えてください。

阿部 友人が誕生日プレゼントに『翻訳できない世界のことば』

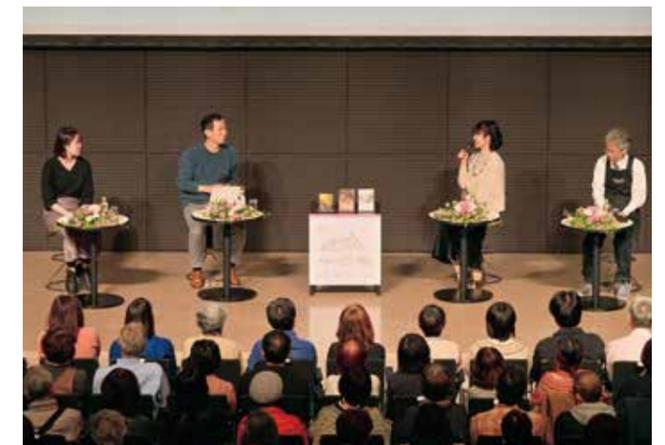
（創元社）という本を贈ってくれて、その中に『カフネ』という言葉があり、すごく素敵な言葉だなと思ったんですね。カフネの主人公である二人の女性は、友人かと言われると友人ではないし、家族かと言われると違うのですが、何かその二人の関係を象徴する言葉を、小説のタイトルにしたいと思っていました。ふさわしい言葉がなかなか見つからなかったのですが、『カフネ』という日本語に訳するのが難しい言葉なのですが、すごく深く、とても広やかな愛を表現した言葉なので、これであれば、一つの言葉で表現するのが難しい二人の関係を、ふわっとおおらかに表現してくれそうだなと思い、このタイトルにしました。

—— 『カフネ』では、様々な困難を抱えた人物が登場し、その人たちが再び立ち上がっていくような

姿が描かれています。こうした人物像に注目した、経緯を教えてください。

阿部 ことさらに困っている人たちを描こうと意識してたわけではないんですが、ある意味、意識するまでもなく、身近な問題であるというところが大きいのかもかもしれません。岩手県は、だいぶ高齢化や人口減少が進んでいる地域だと思うんですね。ご高齢でも一人暮らしされている方とか、ご家族が関東やそれよりもっと遠くのほうにいる方とか、私の身近でもいるので。それもあって、物語を書こうと思った時にでてきた部分があるかもしれません。

—— 本作品では、家事代行サービスを通じて、人と人とのつながりや、身近にある幸せを見出していく様子が描かれています。この家事



文学の国いわて2025講演会の様子



小説家

阿部 暁子

あべ あきこ

岩手県花巻市出身、岩手県在住。2008年『屋上ボーイズ』（応募時タイトルは「いつまでも」）で第17回ロマン大賞を受賞しデビュー。著書に『どこよりも遠い場所にいる君へ』『また君と出会う未来のために』『パラスター〈Side 百花〉』『パラスター〈Side 宝良〉』『金環日蝕』『カラフル』などがある。『カフネ』で第8回未来屋小説大賞、第1回あの本、読みました？大賞、2025年本屋大賞を受賞。

私にとって故郷は
家族のようなもの。
無意識のうちには、
にじみ出てしまう。



代行を作品に取り入れたきっかけ
がありますか。

阿部 執筆時にコロナ禍がありまして、生活というものが本当に脅かされるのを、まざまざと感じたんですね。そうしたギリギリの状況に置かれている人たちの生活を、援助とかボランティアという形で、踏み込んで書くことは失礼なことなのではないか、と葛藤した部分もありましたが、何か大変なことが起きた時に、くじけそうになっている人たちを、なんとか少しでも楽になれるように、物語の中だけでもそれができるようにしたい、という気持ちがあったので、それが家事代行を作品に取り入れた理由の一つになったと思います。

—— 現在、県内在住ということですが、阿部さんにとって、岩手はどのような場所であると感じますか。

阿部 言い方が良くないですが、

すごくここにいたくて、ずっと岩手に住んでいるのかって聞かれると、そうではないんですよ。色々な事情が重なり、出ていく理由がなかったの、ずっといるような感じなんです。

でも、これを言いかえると、家族と似ているなど。望んで関係を結んだ相手ではない、その最たるものが家族だと思うんですよ。クラスにいたら絶対友達にならないタイプだけど、生まれてみたら父親だった、母親だった、姉だったみたいな感じで、自分の意思ではないところから始まった関係みたいところが、すごく家族と似てるなと思っています。自分にとって岩手県は、その家族にすごく近い存在で、特に明確な理由があって一緒にいるわけじゃない、というような関係性かもしれません。

でも、誰かが岩手の悪口を言っていると腹が立ったりすることもあり、やっぱり心の底では愛している部分がある。まさに、家族みたいな存在ですね。

—— 岩手の料理やモノで、何が好きですか。

阿部 食べ物では、ひつまみが大好きです。鶏肉、大根、人参、きのこなども一緒に入れて食べるのが美味しいですね。話をしていたら、食べたくなくなりました。あとは、ホヤも大好きで、夏は絶対食べます。

岩手のモノで言うと、南部鉄器が好きですね。南部鉄器の鉄卵をやかんに入れてお湯を沸かしたりします。『カフネ』の中で、南部鉄器が出てくるシーンがありますが、あれは私が、実際に南部鉄器職人さんの作業を見る機会があり、素直に「ほお、すごいな。」と感心させられた思いが強く、作品に出てきた感じです。

全国ニュースで岩手の元気な話題が取り上げられると嬉しい気持ちになります。

—— 岩手から作品に影響を受けていると感じることはありますか。

阿部 自分ではよくわからず、あまり意識もしていないのですが、私の作品は「優しい物語が多いね。」とよく言われます。そういう自分が意識せずに、にじみ出ているものがあるのであれば、それはもしかしたら家族のような岩手から影響を受けているのかもしれないです。あとは、風景描写を書くのがいつも長くなってしまっているので、せせと削るのですが、つつい好きな風景描写を書いてしまうのは、自然が豊かな岩手のせいかもしれません。

岩手山に雪がかかった姿も、ものすごく美しいですよ。岩手には美しいものが身の回りにたくさんあると思います。

—— ご自身としては「家族のような岩手」ということですが、その岩手には今後、どうあり続けてほしいですか。

阿部 先ほど、岩手の高齢化、人口減少という話をしましたが、人の少ない集落であれば、やはりじわじわと暮らすことが難しくなっていく部分があると思います。そうなった時に、それでも岩手がいいっていう人は大勢いると思うんですよ。例えば、暮らすのにバスがもうないよとか、そういう地域であっても、やっぱりそこに住んでいる人は岩手が好きだ、ここが好きだ、と住み続けている人が大勢いる。だから、最後の最後まで、そういう人たちを見放さない岩手であってほしいですし、ここで生きていけるな、という実感を持てる場所であるといいなと思いますね。

—— 幸せに、前を向いて生きていく、そのための要素は、どういうところにあるとお考えですか。

阿部 私もよく幸せって何なんだろう、と考えるのですが、人によって様々ですよ。何か望むものがある人ならば、それを得られることが幸福につながると思いますし、自分が何が欲しいかわからない、という人もいると思うんですね。では、その人は幸福になれないかということ、多分そういうことでもなく、家族がいたなら、家族と心通った瞬間に幸せを感じることもあるかもしれませんし、家族がいなくても、親しい人がいるなら、その人と心地よい時間を共有できたときに幸せを感じられるかもしれないし、全く一人であっても、何か美しいものを美しい、と思えた瞬間に幸福があるかもしれないので。

いろいろな境遇、いろいろな事情を抱えている方がいると思いますが、その人にとって、何か心地いいものが訪れた瞬間に幸せは生じると思うので、その人がそれを手に入れられる体制があればいいと思いますし、逆にいろんな立場にある

人が何か心地いいものを得ようとしたときに邪魔をしない周りであったならいいなと思いますね。あとは、私自身、小説が全く書けなくて、つらい時期もあったんですが、そういう時に、ふと手に取った本が全てを貫くように面白くて、強制的に幸福になってしまうという経験があり、文化って確かにそういう力があるな。問答無用で、「素晴らしい。幸せだ。」という印象をもたらすことができるのも、文化の力だと感じています。

—— 最後に今後の抱負をお願いします。

阿部 本の値段が段々高くなっていきますが、それでも本を買って、読んでくれる人がいます。本を買って読んでくれる方々に、お金を払っていただいたこと、時間を費やして読んでいただいたこと、これを後悔させないような面白いものを書き続けたいと思います。そして、あわよくば読んだ後に、「なんかいい気分になったかも。」と思ってもらえるような作品が書けたらいいなと思います。





より多くの経験と選択肢を 子どもたちに与えてあげたい

NPO 法人ハナレヤ

内田 祐貴

うちだ ゆうき

少年時代に関東圏から岩手にUターンし、地域の遊び場や学び場の少なさに寂しさを感じていた内田祐貴さん。大学在学中にハナレヤを立ち上げ、子どもたちが気軽に集まることができる居場所づくりや様々な体験機会の創出に励んでいます。未来を担う若者のために、社会ができることは何か…。ハナレヤの活動には、そのヒントがあります。

— 自己紹介をお願いします。

内田 生まれは盛岡です。親が転勤族だったので、青森、北海道、埼玉などを転々としていました。中学に上がるタイミングで、父親もいつか地元に戻りたいという話をしており、祖母が一人で岩手に住んでいる状態にもなっていたので、一家でUターンしようということで、そのタイミングで花巻の暮らしがスタートしました。その後、県内の高校、大学に進学し、大学在学時に任意団体「ハナレヤ」を設立しました。「地方の10代を呼び興す」というテーマで、主に「人づくり」、「まちづくり」、「居場所づくり」に関わる活動をしています。

— ハナレヤを設立するに至った経緯を教えてください。

内田 子どもの頃、都会と地方のどちらにも住んでいた経験から、都市と地方の子どもが置かれている環境にギャップを感じるようになっていました。関東圏にいた頃は、子どもだけで映画館に行ったり、ファミレスに行ったり、ボウリングやカラオケで遊んだりしていました。そうした環境から岩手に来てみる

と、子どもの頃の自分にとっては遊べる場所が少なく、あったとしても生徒手帳には「娯楽施設に行っちゃいけない」というようなことが書かれていて…仕方がないので、次は公園でボール遊びをしようと思ったら、「この公園ではボール遊びは禁止」と書かれていて、「子どもの遊ぶ場所が無いじゃないか。」と感じていました。学びの面では、岩手では塾に行っている子が少ないですね。最近のデータでは、岩手県の小・中学生の通塾率は30%程度で、全国の中でもかなり低い状況です。一方、神奈川県や東京都は50〜70%程度であり、全国でもトップクラスです。私に関東にいた頃は、「塾に行っておかないとまずいんじゃない?」というような雰囲気がありました。しかし岩手では、塾に通っていると「ガリ勉で気持ち悪い。」みたいなことを言われたこともありましたね。また、真冬の吹雪の中、図書館に勉強に行っても、シニア世代とのスペースの奪い合いのような感じになり、仕方がないので、次は駅で勉強しようとしたら、駅は勉強する場所ではないと怒られてしまい、なんだか若者の居場所

が地域にないかと寂しくなりました。子どもは生まれる場所や暮らす場所を選べないのに、遊びや学びの環境面において、こんなにも地域間でギャップがあるのかということ、地元は好きな場所だけれども、好きになれない部分もある、というようなモヤモヤした気持ちを抱いていました。遊ぶ場所もない、勉強できる場所もないと感じていた高校生の時、追い打ちをかけるように東日本大震災がありました。「ここで生まれ育っただけなのに、なんでこんなにしんどい思いをしなきゃいけないんだ」という心の叫びが、今の活動をスタートするに至った大きな要因です。その後、大学在学時に起業家塾や外部の活動に参加していたら、自己分析がいろいろと進み、自分の中で「花巻」と「自習カフェ」というキーワードが出てきました。それをブラッシュアップしてビジネスモデルにした結果が今のハナレヤのベースになります。友達と放課後に喋ったり、勉強をしたりなど、みんなが気軽に集まることができる秘密基地のような場所を作りたいと思い、このハナレヤを立ち上げました。

— ハナレヤの具体的な活動やスタッフの構成を教えてください。

内田 日中はカフェスペースとして普通にお客さんがいて、夕方以降はカフェとしても営業しつつ、学生向けに自習スペースとしても



うちだ ゆうき
内田 祐貴
NPO法人ハナレヤ代表理事。岩手県花巻市出身。岩手県立大学在学中に任意団体「HANALLE→(ハナレヤ)」を設立し、「地方の10代を呼び興す」をミッションに、人材育成、居場所づくり、まちづくりに取り組む。2023年に「NPO法人ハナレヤ」として法人化。



使ってもらっています。2階は学習塾になっていて、「タブレット × 学習コーチ」のハイブリットで指導する自立学習塾や、ロボット・プログラミング教室を開設しています。常駐スタッフは私ともう一人の基本2名で、カフェと学習塾に対応しています。今後、カフェにアルバイトも入る予定です。建物全体は、いわゆるユースセンターという位置付けであり、一般的にユースセンターは学校に居場所がないとか、家庭に問題があったとか、社会福祉的に困っている子の居場所作りなどに焦点を当てているケースが多いです。しかし我々は、社会福祉だけではなく、地域の担い手や将来を担う子どもたちの未来デザインの一つの手段として、自治体等と連携した社会教育にも力を入れています。最近では、高校の総合的な探究の授業を受け持ったり、地域の課題解決に向けたワークショップや交流会を開催するなど、活動は様々です。

—— ハナレヤに集う若者の思いは、

内田 勉強がしたい、友達が欲しい、単純に暇だからなど、ここに集まる理由は様々だと思います。とにかく、ここに来れば堅苦しい勉強や学びではなく、ゆっくりカフェでくつろいだり、勉強したり、庭の畑で BBQ や農作業をしてみたり、遊びの延長線上で色々なことができる。そんなことを期待しながら集まってきてくれていると思っています。

ここで遊び感覚で取り組んできたことが、結果的に、気づいたら色々なことを学んでいて、自分の価値観が広がっている。

そして、ここで経験したことも含めて、自分たちはどういう道を選ぶのか。そのために我々は、より多くの選択肢を地方の子にも与えてあげたいという思いがあります。

—— 若者が地域で輝く瞬間など、印象的なエピソードはありますか。

内田 若い子たちにとって、「自分はこの地域で存在意義があるんだ。」と感じてもらえるような活動ができるよう意識しています。例

えば、ある女子高生の「花巻におしゃれなスイーツくない？」という発言をきっかけに、その子たちの発想で、揚げずに焼いて作るドーナツを売ってみるということで、キッチンカーを借りてイベントで売ってみたら、1日で300個も売れてしまった。学校ではバイトを禁止されている子が多く、社会でお金を得るという経験がないので、いざやってみると、自分のしたことが人に喜ばれて、ちゃんとお金ももらえる。しかも、アルバイトの時給の切り売りではなく、それなりのまとまったお金も稼げるということに気づいて、「あれ？なんか花巻も良いんじゃない？」みたいなことを言い出すんですね。実家に暮らしながら、生活コストを抑えて、平日は普通に仕事をしつつ、空いた週末にキッチンカーでドーナツを売って、追加の収入があるなら、「都会の子より全然良いかもしれない。」みたいな話が、本人たちの口から自発的に出てくるんです。

何となく周りに流されて都会に行ってしまうのではなく、様々な



価値観や、地元でもできることを知ったうえで、岩手で生まれ育って幸せだなと思ってもらえれば嬉しいですし、このような体験を小学生ぐらいの頃から地域の若者に経験させてあげたいと思っています。

—— ここを巣立った若者の地域や都会に対する考え方について、変化を感じることはありますか。

内田 このハナレヤで育った子たちが、私の手を離れても地域イベントの運営などをしてれています。その子たちは、もっと若い世代の子たちにとって、身近な先輩として良いロールモデルとなり、その結果として、人が育つ循環が生まれています。進路や就職先の関係で、みんな地元に残れるわけではないですが、岩手を離れた子たちも、いわゆる関係人口という形で、今も何かしら地元に関わり続けてれています。

例えば、デザイン関係の仕事で地元を離れた子は、「次のイベントのチラシ作りましょうか？」というよ

うな連絡をくれますし、帰省のたびに顔を出してくれる関東の大学生の子は、県外出身の大学生5、6人を連れてきてくれて、それが新たに岩手のこと、地元のことを知ってもらうきっかけにもなっています。ここを巣立った子たちが、今もそうした形で地域と関係を保っているのは、純粋に、ここでの楽しかった思い出があるからなのかなと思っています。

—— 地域におけるハナレヤの役割とは。

内田 ハナレヤは教育だけ、福祉だけの場所ではなくて、地域や人、地元企業にとっても、良い未来に繋がるような役割を果たしていきたいと思っています。若い子たちが、地域や社会を肌で感じる体験を小さい頃からしておけば、その感覚を持った子が中学生ぐらいから、だんだん地元の仕事や大人の動き方を知っていき、高校生くらいになると、それを理解したうえで色々な探究に入る段階になり、

かなり質の高い探究プロジェクトになります。そして、自分で考えたプロジェクトが誰かの役に立ち、地域社会における自分の存在意義を認識できるようになります。そうになると、本人たちも我々も幸せですし、みんな一緒に遊びながら成長している感覚ですね。これらは、定住率や幸福度の向上にもつながっており、地域の未来をつくる重要な役割だと考えています。

—— ご自身の幸福が得られる瞬間は。

内田 自分が良いと思うアイデアやその行動で、一緒に取り組む若い人たちも喜んでくれて、地域の人にも喜んでくれる。みんなにとって、役に立つことを自分ができていると感じられる。やっぱりそれが自分にとって幸せなことなんだと思います。



豊かな森林資源を守りながら 未来のためにできることを

合同会社ライトリソース

上野 早紀

うえの さき

地域おこし協力隊として活動したことをきっかけに、九戸村に定住し、林業に従事する上野早紀さん。経済主体の社会への問題意識から自然環境を未来につないでいく必要性を感じ、自伐型林業と未利用材の活用などに携わっています。「自然の中に身を置いていると幸福を感じる」という上野さんに、岩手での仕事と暮らしについて聞きました。

— 自己紹介をお願いします。

上野 出身地は神奈川県横浜市で、大学卒業まで神奈川県内に住んでいました。大学卒業後は、看護師として地元の病院に勤務しており、その後、2021年に九戸村の地域おこし協力隊に着任しました。地域おこし協力隊での活動は、それまで全く経験したことのない林業分野の業務であり、自伐型林業の実践と普及をミッションに3年間活動しました。協力隊退任後、森林整備の会社を設立し、現在に至るまで村内の森林整備事業や未利用木材の活用事業などを行っています。

— 九戸村の地域おこし協力隊を希望した経緯について、教えてください。

上野 発端は大学時代の経験が大きいかもしれません。大学では、経営学部で経営経済を学んでいました。学生ビジネスコンテストを運営するインカレサークルにも所属し、「いつか自分も大企業に就職して経済を回してみたい」というビジョンを描いていました。しかし、大学の授業やサークル活動を通して最終的に感じたのは、「経

済活動というものは、何らかの犠牲が必ず伴うもの」ということです。そして、その犠牲の対象の最たるものが自然環境であるとも感じており、そのような現代社会に対して、少し違和感を抱いていました。「消費や経済を主体とした社会の問題点に気づき、生きる上でもっと大切な本質に目を向けたい」と考えるようになり、その頃から、芸術活動や歴史探索、日本各地を自転車で回るようなことをしていました。ある時、芸術家の岡本太郎さんが執筆した「日本再発見 芸術風土記」という本を読む機会があり、その本の中で、東北の縄文文化が絶賛されていて、そこで縄文文化に興味を持つようになりました。そして、東北の縄文文化を実際に感じてみようと思い、東北を旅していた時に、自伐型林業というものに出会いました。

自伐型林業とは、森林所有者や地域住民が自ら森林を管理・伐採し、大規模な皆伐ではなく、必要な分だけ間伐や選木を行い、持続可能な形で木材を利用する林業スタイルです。「未来に豊かな森林を残していく」という考え方に魅了され、いつか自分もそれに関わりたと思っていた頃、九戸村が自伐型林業で地域おこし協力隊を募集

していたことを知りました。九戸村は、非常に豊かな森林資源に恵まれており、この森林がもたらす様々な効果によって、人間の生活が成り立っている部分が数多くあります。その一例として、二酸化炭素の吸収による地球温暖化の緩和や、水源かん養、土砂災害の防止、生態系の保全などが挙げられます。木や土壌、そこに住む生物など、森林全体が一つの循環システムとなり、膨大な年月をかけて作られてきたものですので、一度壊れてしまうと、再生するためには非常に長い年月を必要とします。近年は、世界的にも過度な開発や荒廃などによる森林資源の減少が問題となっていますが、ここ九戸村は、貴重な森林資源と共に生きる可能性に満ちた魅力のある村だと思っています。

— 現在の仕事はどういった内容でしょうか。

上野 地域おこし協力隊として従事した3年間の任期の中で自伐型林業を学び、協力隊を退任した後も林業を続けていきたいと思っていました。そして現在は、林業の会社を設立し、村内の山林の間伐や整備活動をしています。その他には、個人や自治体からの依頼を受けて、民家や村道の支障木の伐採などもしています。元々、登山が好きだったので、山に登ることはあったのですが、実際に木を切る作業となると、大変な部分はありつつも、これまで以上に自然に近づけるような感覚がありました。



うえの さき
上野 早紀

神奈川県横浜市出身。大学在学中、東北を自転車で3週間かけて廻り、北東北の縄文文化や自伐型林業に興味を持つ。大学卒業後は看護師として医療に従事。2021年、自伐型林業をミッションとする地域おこし協力隊として活動するため九戸村へ移住。協力隊退任後、森林整備の会社を立ち上げ、放置林の整備活動に取り組む。



森林での作業の疲れは、パソコンとずっと向き合っている時の疲れとは全く違って、やみつきになってしまうような面白さがありますね。間伐をして、山が綺麗になっていく姿を見るのも、やりがいにつながっています。

— 「KUNOHE木工女子部」という活動もされているそうですね。

上野 KUNOHE木工女子部は、私が地域おこし協力隊の在任中に立ち上げた団体です。放置林の整備で抜出される木材は市場価値が低く、事業として自伐型林業をやっていくためには、その採算性の低さがネックでした。それを解消するために、放置林から出る未利用材を商品化して、木材の価値を高めたいと思い、村内の女性2人に声をかけて活動を始めました。私以外のメンバーには、商品デザインや木材加工を担当してもらっています。主な活動内容は、

間伐材を使用した日用品やオーダーメイド品の販売で、木製のオリジナル名札や積み木のおもちゃなどを作成しています。その他にも、ワークショップや講演をすることもあります。また、クラウドファンディングによる支援もあり、「村内の幼稚園にクリスマスプレゼントを寄贈しよう」ということで、私たちが木製のパズルのようなおもちゃを作製して、子どもたちにプレゼントするようなプロジェクトも行っています。

— 移住当初の暮らしや未経験分野（林業）の仕事で苦労したことはありますか。

上野 居住の面では、当初、個人で空き家などを探していましたが、実際に村内を見て回ると、空き家はたくさんあるものの、やはり古い家が多かったりして、すぐに住めるような空き家はなかなか見つかりませんでした。最終的に私は運良く定住することができていま

すが、移住における住居探しという部分は、未だに課題として残っているのかなと感じています。生活の面では、関東で育ってきたので、やはり冬の寒さがこんなに厳しいとは思っていませんでした。一度にたくさん雪が降ってしまうと、なかなか身動きが取りづらくなると思う場面はありますね。しかし都会は、「震災でライフラインが止まってしまったら何もできないな」ということを、向こうにいた頃から思っていたので、地域資源を活用して暮らしていける地方は、そういう面では非常に強いと感じます。

仕事の面では、地域おこし協力隊の3年間で林業の技術を学びましたが、「林業」というものに慣れるまでが大変でした。短期間ですぐ身につくような技術ではないんですね。日々、山に通い続けて、一つ一つ木を切ったり、重機で作業用の道を作ったりしながら、現場の技術を学んでいくという感じでした。林業は力作業が多く、男性と同じチェーンソーを持って作業をするのは大変だったので、チェーンソーを軽量化してみたり、機械でできることはなるべく機械化したりなど、自分なりに試行錯誤を繰り返してみると、次第に作業時間も短縮していき、無理なく技術を習得していったように思います。

— 冬場はどのように過ごしていますか。

上野 大型機材を扱っている会社

などであれば、降雪時期も作業ができるかもしれませんが、その辺は割り切って、冬場は基本的に山での作業はお休みしています。その代わりに、木工製作に力を入れたり、販売会などのイベントに出展したりしていますね。あとは、気になる本を読んで自身の勉強にあてることが多いです。

— 地域の方々と信頼関係を構築するためのポイントは。

上野 実は、積極的に地域のコミュニティに所属したり、飲み会に参加したり、ということはありません。「付かず離れずの関係」というイメージでしょうか。ただ、不思議と地域の皆さんには助けていただく場面が多く、山や倉庫、車を貸して下さったり、クラウドファンディングにご協力いただいたり、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。色々な方に助けていただき、心の底から感謝の気持ちを抱くようになってから、自然と人に恵まれるようになってきたと感じています。そうした方々への感謝を忘れず、「自分のできることでお返ししたい」という気持ちを常に持っているのも、もしかしたら、それが相手にも伝わって信頼関係の構築につながっているのかもしれない。

— 岩手で生活して感じる自身の変化はありますか。

自分自身は、人間的に丸くなったと感じています。10代の頃の自分



は尖っていて、他人をうとましいと思っていましたし、何でも一人でやろうとしていました。しかし、岩手に来てからは、自分を助けてくれる周囲の方々の存在と、そのありがたみを知り、誰かと協力しながら挑戦してきたことが大きな成果に結びつくという経験もしてきました。確かに、人と関わりを持つと面倒に思う場面もありますが、やはり、「人との関わりというのは、人生を豊かにするポイントになるのかな」と、ここで生活して感じられるようになった気がします。

— 岩手での暮らしや活動を通して得られる幸福感について、お聞かせください。

上野 岩手で暮らしてみて、「自然のリズム」をすごく感じるようになったんですね。これは都会のコンクリートに囲まれた生活では感じられなかったもので、自然環境や気候風土が生み出すリズムだと

思っています。その中に身を置くと、なぜだか幸福感が得られるんですよ。それに加えて、私の仕事のメインフィールドは森林であり、なおさら自然に触れ合う機会が多いので、より満ち足りた気持ちになります。

最近では、生きているうちに「自分がどれだけ未来に良い影響を残せるかな」ということをイメージしながら活動しています。ここ九戸村で、豊かな自然に囲まれながら未来に良い影響をもたらすことができ、誇りのある仕事ができていると思っていますし、「この素晴らしい自然のシステムを未来につなげる」、それが私のモチベーションになっています。

いわて県民計画(2019～2028) 第2期アクションプランの概要

いわて県民計画(2019～2028)の理念

- 県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会の実現を目指し、幸福を守り育てるための取組を進めること
- 地域社会を構成するあらゆる主体が、それぞれ主体性を持ち、共に支え合いながら岩手県の将来像を描き、その実現に向けて、みんなで行動していくこと
- 社会的に弱い立場にある方々が孤立することのないように、社会的包摂(ソーシャル・インクルージョン)の観点に立った取組を進めること

いわて県民計画(2019～2028)の基本目標

東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて

いわて県民計画(2019～2028)の構成

長期ビジョン

長期的な岩手県の将来を展望し、県民みんなで目指す将来像と、その実現に向けて取り組む政策の基本方向を明らかにするものです。[計画期間：2019年度から2028年度までの10年間]

アクションプラン

長期ビジョンの実効性を確保するため、重点的・優先的に取り組むべき政策や具体的な推進方を盛り込むものです。

第2期アクションプランの計画期間等

計画期間

令和5年度から令和8年度までの4年間

構成

長期ビジョンの内容及びこれまでの構成等を踏まえ、「復興推進プラン」「政策推進プラン」「地域振興プラン」「行政経営プラン」で構成

第2期政策推進プランの重点事項

- 第2期政策推進プランにおいては、新型コロナウイルス感染症の影響、人口減少の進行、デジタル化の進展、温室効果ガス排出量の2050年度実質ゼロなど、直面する課題に的確に対応し、施策を強化します。
- 第1期政策推進プランの成果と課題、市町村長との意見交換、関係団体等からの御意見・御提言を踏まえ、第2期政策推進プランでは、人口減少対策を最優先で取り組むべきものと位置付けています。
- 4つの重点事項を掲げ、10の政策分野や11のプロジェクトなど、県民計画に基づく施策を着実に推進します。

【重点事項1】

性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めながら、結婚・子育てなどライフステージに応じた支援や移住・定住施策を強化します

- 性別にかかわらず誰もが活躍できる環境づくりを進めるとともに、産業政策を総合的に展開し一人ひとりの能力を発揮できる多様な雇用の確保を進めながら、結婚、妊娠・出産、子育てへの支援などの自然減対策や、若年層の県内就職、移住・定住の促進などの社会減対策を強化します。
- 市町村や関係団体等と連携し、県民運動等による社会全体の機運醸成を行い、安心して子どもを産み育てられる環境の充実にオール岩手で取り組んでいきます。

【重点事項2】

GX(グリーン・トランスフォーメーション)を推進し、カーボンニュートラルと持続可能な新しい成長を目指します

- 再生可能エネルギーの導入促進、森林整備や県産木材の利用促進など森林資源の循環利用、省エネ住宅の普及を進めるなど、地域経済と環境に好循環をもたらす持続可能な新しい成長を目指しながら、誰もが住みたいと思えるふるさとを次世代に引き継いでいきます。
- 県民、事業者、行政が一体となり、温室効果ガス排出削減目標の達成に向け県民運動を展開します。

【重点事項3】

DX(デジタル・トランスフォーメーション)を推進し、デジタル社会における県民の暮らしの向上と産業振興を図ります

- 全ての県民がDXの恩恵を享受できるよう、「行政のDX」「産業のDX」「社会・暮らしのDX」「DXを支える基盤整備」の4つの取組方針のもと、あらゆる産業のDXの促進、県民生活の利便性の向上、情報通信インフラの整備、市町村への支援を進めます。

【重点事項4】

災害や新興感染症など様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します

- 東日本大震災津波や新型コロナウイルス感染症の経験を踏まえ、様々なリスクに対応できる安全・安心な地域づくりを推進します。



岩手県 二戸市 折爪岳

第2部

「希望郷いわて」の今

いわて幸福白書
2026

第2部の概要

第2部では、県民の幸福度の現状や、県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果を紹介します。

県民の幸福度の現状については、毎年実施している県民意識調査^(注1)の調査結果の中から、「主観的幸福感」、「幸福かどうかを判断する際に重視した事項」、「分野別実感^(注2)」の結果を掲載しています。

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果については、28ページ以降、「いわて県民計画(2019～2028)」(以下「いわて県民計画」という。)に掲げる10の政策分野ごとの政策評価の結果をダイジェストで掲載しています。

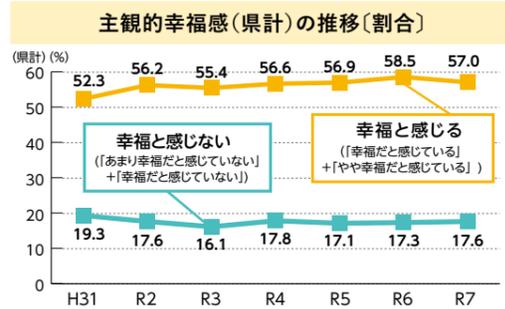
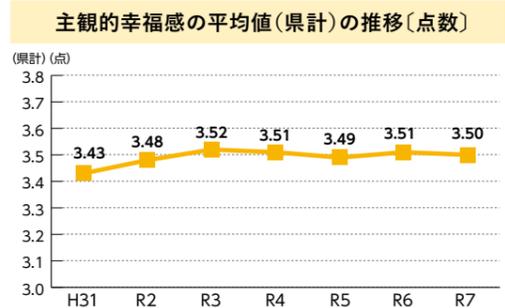
なお、10の政策分野の概要は、26ページをご覧ください。

県民の幸福度の現状

主観的幸福感

県民意識調査で、「あなたは現在、どの程度幸福だと感じていますか。」という設問に対し、5段階で把握したものです。

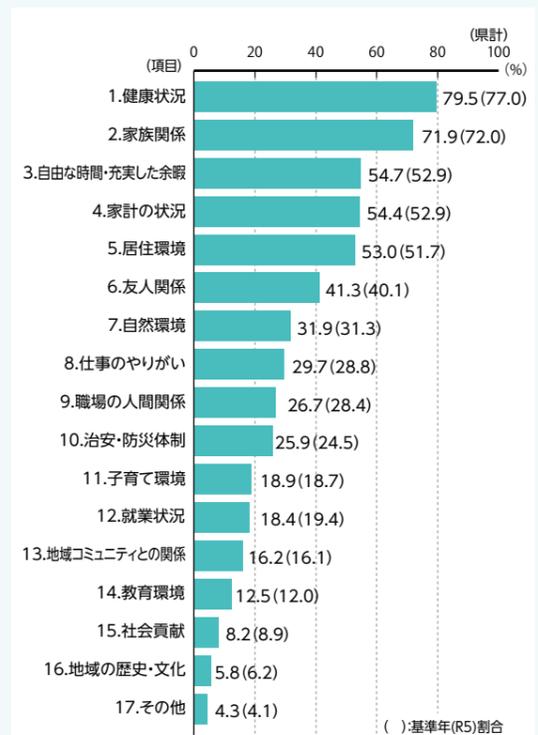
その結果、「幸福だと感じている」から「幸福だと感じていない」までの5段階の選択肢に応じて5点から1点を配点したところ、県全体の平均値は、5点満点中3.50点となりました。



幸福かどうかを判断する際に重視した事項

県民意識調査で、「あなたが幸福かどうか判断する際に重視した事項は何ですか。」という設問に対し、下表の17の項目から該当する全てを選択いただき、把握したものです。

その結果、幸福かどうか判断する際に重視する割合が高い順に「健康状況」、「家族関係」となっています。



分野別実感

県民意識調査で、「現在のあなたご自身のことについて、おたずねします。」という設問に対し、10の政策分野に関する下表の12の項目に対する実感を回答いただいたものです。

第2期政策推進プラン開始直前の令和5年(以下「基準年」という。)と比較した場合、令和7年の分野別実感、1分野で上昇、10分野で横ばい、1分野で低下となりました。

実感の平均値が高い順に、「自然のゆたかさ」、「家族関係」、「地域の安全」となっており、「自然のゆたかさ」の実感、4点を超えています。

なお、下表には参考として、いわて県民計画の開始前である平成31年の平均値も示しています。

政策分野	分野別実感	平均値の推移			
		H31 (計画開始年)	R5 (基準年)	R7 (当該年)	R5とR7の差
I 健康・余暇	(1)心身の健康	3.00	3.18	3.21	- (0.03)
	(2)余暇の充実	3.05	2.93	3.00	↑ (0.07)
II 家族・子育て	(3)家族関係	3.84	3.91	3.91	- (0.01)
	(4)子育て	3.08	3.06	3.07	- (0.01)
III 教育	(5)子どもの教育	3.10	3.14	3.15	- (0.01)
IV 居住環境・コミュニティ	(6)住まいの快適さ	3.34	3.29	3.30	- (0.00)
	(7)地域社会とのつながり	3.35	3.07	3.12	- (0.05)
V 安全	(8)地域の安全	3.82	3.69	3.62	↓ (△0.07)
VI 仕事・収入	(9)仕事のやりがい	3.54	3.39	3.41	- (0.02)
	(10)必要な収入や所得	2.65	2.53	2.50	- (△0.03)
VII 歴史・文化	(11)歴史・文化への誇り	3.28	3.23	3.27	- (0.04)
VIII 自然環境	(12)自然のゆたかさ	4.21	4.21	4.23	- (0.02)

(注)①()は基準年調査との差。なお、四捨五入の関係から年平均値とその差の合計が一致しない場合があります。
②t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認できたものは、網掛けと矢印で表記しています。

岩手県の政策評価

県では、いわて県民計画の実効性を高めていくため、政策評価を実施しています。

10の政策分野の政策評価では、各政策分野に設定した、幸福に関連する客観的指標(いわて幸福関連指標)の達成状況に加え、県民意識調査で把握した政策分野ごとの実感、参考指標^(注3)、社会経済情勢等を踏まえ、総合的に評価をしています。

評価区分	10の政策分野の総合評価の基本的な考え方	(※)指標達成度の判定区分
A	政策分野ごとに、全ての指標が目標達成率80%以上(指標達成度 ^(※) [A]又は[B])であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいることから、引き続き取組を推進するもの。	[A] 100%以上 [B] 80%以上 100%未満 [C] 60%以上 80%未満 [D] 60%未満
B	政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け概ね順調に進んでおり、一部見直しを行いながら、引き続き取組を推進するもの。 ※全ての指標が目標達成率80%以上であっても、県民の実感が基準年(R5年)と比べ「低下」している場合にはBとする。	
C	政策分野ごとに、目標達成率80%以上の指標が半数未満であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向けあまり順調に進んでいないことから、一部見直しのほか、より効果的な取組を検討するなど、一層の施策の推進が必要なもの。 ※目標達成率80%以上の指標が半数以上であっても、県民の実感が基準年(R5年)と比べ「低下」している場合にはCとする。	
D	政策分野ごとに、目標達成率60%未満(指標達成度[D])の指標が半数以上であり、政策分野を取り巻く状況などを踏まえ、政策分野の取組方向の実現に向け順調に進んでいないことから、見直しや改善を行うなど、更なる重点的な施策の推進が必要なもの。	

(注1) 県民意識調査について

県では、県の施策に対する実感などを把握するため、「県の施策に関する県民意識調査」を実施しています。調査の概要は次のとおりです。

- ①調査対象 県内に居住する18歳以上の男女
- ②対象者数 5,000人
- ③抽出方法 選挙人名簿からの層化二段無作為抽出
- ④調査方法 設問票によるアンケート調査(郵送法)
- ⑤調査時期 毎年1～2月
- ⑥回収率 令和7年調査は63.2%(3,159人/5,000人)

(注2) 分野別実感(政策分野ごとの実感)について

県民意識調査では、政策分野に関連する実感を把握し、各政策分野の政策評価に活用しています。なお、県民の幸福を下支えする共通土台として設定した「IX社会基盤」、「X参画」の2分野については、関連する実感を把握していません。

(注3) 参考指標について

県民の幸福に関連する統計データであるものの、毎年実績値を把握できないものや、個人の選択の自由に関連するものなど、目標値を設定して管理することになじまない統計データについては、「参考指標」として位置付けています。

政策推進の基本方向

「10の政策分野」のもと
一人ひとりの幸福を守り育てる取組を展開していきます。

県民一人ひとりがお互いに支え合いながら、幸福を追求していくことができる地域社会を実現していくため、多様性の視点や社会的包摂（ソーシャル・インクルージョン）の視点を重視しながら、地域社会を構成する県民・企業・NPO・市町村など様々な主体とともに、「10の政策分野」の取組を展開していきます。

I 健康・余暇分野 (P28~)

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手を目指します。

II 家族・子育て分野 (P31~)

家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、また、安心して子育てをすることができる岩手を目指します。

III 教育分野 (P34~)

学びや人づくりによって、将来に向かって可能性を伸ばし、自分の夢を実現できる岩手を目指します。

IV 居住環境・コミュニティ分野 (P37~)

不便を感じないで日常生活を送ることができ、また、人や地域の結び付きの中で、助け合って暮らすことができる岩手を目指します。

V 安全分野 (P40~)

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、事故や犯罪が少なく、安全で、安心を実感することができる岩手を目指します。

VI 仕事・収入分野 (P43~)

農林水産業やものづくり産業などの活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、また、やりがいと生活を支える所得が得られる仕事につくことができる岩手を目指します。

VII 歴史・文化分野 (P46~)

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、愛着や誇りを育んでいる岩手を目指します。

VIII 自然環境分野 (P48~)

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手を目指します。

IX 社会基盤分野 (P51~)

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手を目指します。

X 参画分野 (P53~)

男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手を目指します。

「県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果」の見方

●政策分野名
10の政策分野名と政策分野の取組方向を記載しています。

●政策分野の総合評価
いわて幸福関連指標の状況、政策分野に係る県民の実感、政策分野の取組状況、他の主体の取組状況についてまとめた上で、当該政策分野の総合評価をA B C Dの4段階で判定したものを記載しています。

●いわて幸福関連指標の達成状況
いわて幸福関連指標の目標値や令和6年度の値などを記載しています。
●囲み数字は掲載データの年度を表しています。
●実績値や順位を測定できない指標は「―」と表示しています。

●全国順位(東北順位)
いわて幸福関連指標の、全国順位・東北順位を令和3年度現状値と比較しています。

●取組状況
政策分野を推進するための令和7年度の県の取組状況を記載しています。

●今後の取組方向
政策分野を推進するため、今後の取組方向を記載しています。

●参考指標
いわて幸福関連指標を補完するために設定した参考指標の状況を記載しています。

●県民意識調査の結果(分野別実感の状況)
令和7年度県民意識調査で得られた分野別実感の平均値の状況を記載しています。
【分野別実感の平均値の算出方法】
各調査項目の回答について、「感じる」を5点、「やや感じる」を4点、「どちらともいえない」を3点、「あまり感じない」を2点、「感じない」を1点とし、それぞれの選択者数を乗じた合計点を、全体の回答者数(「わからない」、「不明(無回答)」を除く。)で除し、数値化しました。
【比較】
分野別実感の平均値を、基準年(R5)と比較した結果について記載しています。
上 昇：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認され、上昇した場合
横ばい：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認されなかった場合
低 下：t検定の結果、5%水準で有意な変化が確認され、低下した場合

【政策評価の結果】

自然環境分野の評価結果

指標名	単位	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度	目標値	達成率	全国順位	東北順位
67 子育て世代の生活満足度(子育て満足度)	ポイント	26	26	26	24	24	B	—	—	—
68 子育て世代の生活満足度(子育て満足度)	ポイント	115	115	115	142	142	A	—	—	—
69 自然環境分野の満足度	ポイント	339	493	431	433	433	A	—	—	—
70 自然環境分野の満足度(自然環境満足度)	%	95.7	95.7	95.7	97.4	97.4	A	—	—	—
71 自然環境分野の満足度(自然環境満足度)	%	36.6	56.3	51.0	43.3	43.3	D	—	—	—
72 一人ひとりの生活満足度	ポイント	37.8	37.8	36.4	34.8	34.8	A	—	—	—
73 一人ひとりの生活満足度(生活満足度)	ポイント	520	493	507	497	497	A	—	—	—

【参考指標】

指標名	単位	令和7年度	令和6年度	令和5年度	令和4年度	令和3年度
28 自然環境分野	%	74.6	—	—	—	—

【県民意識調査の結果(分野別実感の状況)】

調査項目	平均値	標準偏差	傾向
(自然のゆたかさ) 自然に恵まれていると感じますか	4.21	4.21	4.23 横ばい

【今後の主な取組内容】

- 野鳥の計画的な管理のため、被害をもたらす鳥類の種類やモニタリング調査等の被害防止対策に取り組みます。
- 特に、ツキノグマについては、令和6年4月に指定管理員等に追加されたことや、人の日常生活圏に近づいた場合に、地域住民の安全確保等の条件の下で銃撃を可能とする改正鳥獣保護管理法が令和7年9月1日から施行されたことなどを踏まえ、捕獲や環境整備、市町村と連携し、事業者等が主体的に捕獲防止対策を実施してまいります。
- 「産業振興が未来世代の2050年産業費対GDP」の実現に向けて、産地と産地を結ぶ中核として関係、事業者等が主体的に連携を推進します。
- また、地域経済と環境の好循環に向けて、市町村や関係事業者等との連携による地域に特化する「再生可能エネルギー」の導入を促進します。

(注) 10の政策分野に対応するいわて幸福関連指標達成状況の見方
いわて幸福関連指標の指標名や目標値、令和6年度の目標に対する達成率などを記載しています。
【目標達成率の計算式】

- 通常の指標(R3現状値等から数値を上げる目標の場合)
 $(R6実績値 - R3現状値) / (R6目標値 - R3現状値) \times 100$
- マイナス指標(R3現状値等から数値を下げる目標の場合)
 $(R3現状値 - R6実績値) / (R3現状値 - R6目標値) \times 100$
- 維持指標等(R3現状値等を維持する目標の場合)
 $(R6実績値) / (R6目標値) \times 100$ 又は $(R6実績値) / (R6実績値) \times 100$

※ なお、現状値がない指標など、この計算式により難しい場合は、次の計算式により算出しています。
目標達成率 = $(R6実績値) / (R6目標値) \times 100$

指標達成度	目標達成率
達成 A	100%以上
概ね達成 B	80%以上100%未満
やや遅れ C	60%以上80%未満
遅れ D	60%未満

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

I 健康・余暇

健康寿命が長く、いきいきと暮らすことができ、
また、自分らしく自由な時間を楽しむことができる岩手



令和7年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



2025いわて健康ウォーク

楽しく、無理なく歩くことを通して、日頃の健康に感謝するとともに、運動を習慣化するきっかけづくりとして、10月の「脳卒中月間」に合わせてウォーキングイベントを開催しました。



メンタルヘルス推進セミナー

働き盛り世代の自殺予防対策の普及啓発のため、事業所の経営者等向けにストレスチェックの活用などを内容としたセミナーを開催しました。



救急医療電話相談ダイヤル #7119

県民が急なケガや病気の時に、救急車を呼ぶか、様子を見るか迷う場合に電話相談に応じる、救急医療電話相談ダイヤル「#7119」を4月に開設しました。



「いわて介護現場サポートセンター」の開所

介護現場が抱える人材確保をはじめとした多様な課題に対応し、介護事業所を支援するため、「いわて介護現場サポートセンター」を開所しました。



ボッチャ交流大会

障がいの有無や年齢、性別等を問わず、共に楽しむことができるインクルーシブスポーツを推進するため、ボッチャ交流大会を開催しました。



震災・防災の学び合いスペース「I-ルーム」

復興・防災に関するワークショップ等の開催や高校生等のグループによる探究的な学びの場として、県立図書館内の「I-ルーム」が活用されています。

今後の主な取組内容

- 県民が生涯にわたり健やかに生活できるよう、「健康いわて21プラン(第3次)」に基づき、市町村や医療保険者等の関係団体と連携し、減塩・適塩や野菜摂取量増加など望ましい食習慣の定着や、日常生活における歩数増加など運動習慣の改善、特定健診受診率向上のための従事者の資質向上等により、脳卒中予防や健康増進対策に取り組みます。
また、働き盛り世代の生活習慣の改善を図るため、いわて健康経営事業所の認定制度の普及を図り、企業等が行う健康経営の取組をオール岩手で推進します。
- 1人でも多くの自殺を防ぐため、「岩手県自殺対策アクションプラン」に基づき、岩手県自殺対策推進協議会と連携して、包括的な自殺対策プログラムの実践、自殺者の多い働き盛り世代や高齢者など対象に応じた自殺対策を推進します。
また、自殺予防月間等を通じて、悩みの種類に応じた相談窓口の周知をはじめ、健康問題のほか、過労や生活困窮等の社会的な要因も深刻な心の悩みの原因となることについて県民の理解促進を図られるよう、官民一体となって自殺予防の普及啓発を推進します。
- 医師の地域偏在の解消に向けて国に働きかけるとともに、奨学金による医師養成や即戦力医師の招へい、臨床研修医の積極的な受入れ、女性医師等に対する育児支援等により医師確保の取組を推進します。
- 看護職員確保に向けて、県内看護学生の地元就職や県外就職者のU・Iターンの働きかけ等に取り組みます。
- 岩手県生涯学習情報提供システム「まなびネットいわて」の活用と、県立生涯学習推進センターの研修講座や青少年の家等の一般向け事業の充実を通して、県民の生涯学習への参加促進に取り組みます。

令和7年度の評価結果

[政策評価の結果]

健康・余暇分野の評価結果	評価の説明
D	
いわて幸福関連指標の達成度	
	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標 11 指標は、達成度 A の指標が 5 指標 (45%)、達成度 D の指標が 6 指標 (55%) でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「心身の健康」が横ばい、「余暇の充実」が上昇しました。 ● この分野の取組状況は、介護や支援が必要になっても、住み慣れた地域で安心して生活できる環境づくりや生涯を通じて学び続けられる場づくりの取組が進みましたが、生涯にわたり心身ともに健やかに生活できる環境づくりや必要に応じた医療を受けることができる体制の充実に関する取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、岩手県脳卒中予防県民会議において、官民一体となって脳卒中予防や健康増進対策に関する取組が進められているほか、市町村において、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画に基づき、地域の実情に応じた地域包括ケアシステムの深化・推進に向けた取組が進められているなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Dと判断しました。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (R3)	計画目標値 (R8)	年度目標値 (R6)	実績値 (R6)	達成度	参考) 全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
1 健康寿命(平均自立期間)	年	男性 ② 80.03	⑦ 81.00	⑤ 80.61	⑤ 79.40	D	—	—	—
		女性 ② 84.59	⑦ 85.41	⑤ 85.08	⑤ 83.86	D	—	—	—
3 がん、心疾患及び脳血管疾患で死亡する人数(10万人当たり)	人	男性 ② 283.4	⑦ 245.8	⑤ 259.6	⑤ 280.9	D	—	—	—
		女性 ② 154.5	⑦ 120.9	⑤ 128.1	⑤ 149.4	D	—	—	—
5 自殺者数(10万人当たり)	人	16.2	14.6	14.9	22.3	D	20位(1位)	47位(6位)	↓
6 75歳以上85歳未満高齢者の要介護認定率	%	12.3	11.3	11.7	11.3	A	—	—	—
7 訪問診療(歯科含む)・看護を受けた患者数(10万人当たり)	人	② 6,508	⑦ 7,210	⑤ 6,921	⑤ 7,483	A	—	—	—
8 余暇時間(一日当たり) ^{※1}	分	372	382	382	392	A	—	—	—
9 県内の公立文化施設における催事数 ^{※2}	件	—	1,471	1,305	1,578	A	—	—	—
10 スポーツ実施率	%	② 65.4	⑦ 70.0	⑤ 68.2	⑤ 68.8	A	—	—	—
11 生涯学習に取り組んでいる人の割合	%	46.1	50.0	48.0	44.7	D	—	—	—

※1 休日を含む1週間の平均

※2 岩手県内公立文化施設協議会加盟施設のうち、各市所在の主な14施設の催事数

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(R3)	R6	備考
1 健康寿命(日常生活に制限のない期間)	年	男性 ① 71.39	男性 ④ 70.93	3年ごとの公表
		女性 ① 74.69	女性 ④ 74.28	3年ごとの公表
3 喫煙率	%	① 20.9	—	3年ごとの公表

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目	分野別実感の平均値			
	参考[H31]	基準年[R5]	実績値[R7]	基準年との比較
(心身の健康) こころやからだ が健康だと感じますか	3.00	3.18	3.21	横ばい
(余暇の充実) 余暇が充実している と感じますか	3.05	2.93	3.00	上昇

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

II 家族・子育て

家族の形に応じたつながりや支え合いが生まれ、
また、安心して子育てをすることができる岩手



令和7年度の取組と今後の取組方向

【取組状況】



高校生向けライフプラン設計講座

県内高等学校の総合学習等の時間を活用し、結婚・妊娠・出産、子育てと仕事など、将来のライフプランを考える講義やグループワークを行い、希望を持ってライフデザインを描く機会の提供に取り組んでいます。



産後ケア事業の充実に向けた支援

妊産婦等が身近な地域できめ細やかなケアを受けられるよう、利用者の経済的負担の軽減など、市町村の産後ケア事業の取組を支援しています。



県立野外活動センターにおける体験活動

子どもたちの体験活動の充実のため、県立野外活動センターでは、自然に親しみ、興味・関心を高める事業を実施しています。



いわて希望塾

心豊かで意欲に満ちた人材を育成するため、県内中学生を対象とした一泊二日の体験交流活動を実施し、「岩手の将来」について、グループディスカッション等を行いました。



いわて働き方改革AWARD2025

「いわて働き方改革推進運動」を全県的に推進するため、「いわて働き方改革AWARD2025」を開催し、優良企業等の表彰、受賞企業による事例発表及び外部講師による基調講演を行いました。



動物愛護フェスティバル

県獣医師会や動物愛護関係団体等と連携し、動物愛護週間の行事として、動物愛護フェスティバルを開催しました。

今後の主な取組内容

- 結婚サポートセンター「i-サポ」におけるマッチング支援や新規会員の確保に向けた取組を推進するとともに、「いわてで生み育てる県民運動」と連動した子育てにやさしい企業等の認証制度や子育て応援の店に係る情報発信の強化や市町村における産後ケア事業の支援等に取り組みます。また、不妊治療に要する交通費の一部を助成するなど、不妊に悩む夫婦への総合的な支援に取り組みるとともに、企業等に対して不妊治療を受けやすい環境整備等の積極的な働きかけを行うなど、治療と仕事の両立支援を促進します。さらに、市町村と連携し、第2子以降の3歳未満児に係る保育料の無償化や在宅育児支援に取り組みほか、町村における少子化要因の調査分析・対策立案に係る伴走型支援、事例の横展開に取り組みます。
- 待機児童の解消を図るため「岩手県子ども・子育て支援事業支援計画」に基づき、市町村における施設整備への支援や、保育人材の確保等に取り組みます。
- 子ども・子育てに関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、こども施策に関する計画を一体として令和7年3月に策定した「いわてこどもプラン(2025～2029)」により、こども・若者等の意見聴取や施策への反映に取り組みます。
- いわて働き方改革アワードによる働き方改革の好事例の横展開や、働きやすい雇用・労働環境の整備に取り組む企業等への支援により、柔軟で多様な働き方ができる職場づくりを促進します。また、従業員エンゲージメントサーベイ*の実施により、アンコンシャス・バイアスやジェンダー・ギャップの認識度及び実態を把握し、各企業等の実情を踏まえた伴走支援を行い、誰もが働きがいのある職場環境づくりを促進します。
- 殺処分ゼロを目指し、動物の一時預かりボランティア制度を推進するとともに、動物愛護団体等と連携した譲渡会の開催等による新たな飼主への積極的な譲渡や、動物愛護思想等の普及啓発の拠点となる動物愛護管理センターの整備に向けた取組を推進します。

【用語解説】

* 従業員エンゲージメントサーベイ:従業員の仕事に対するやりがいや組織に対する働きがい、貢献意欲を測定し、組織の課題を可視化・把握するための調査。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値(R3)	計画目標値(R8)	年度目標値(R6)	実績値(R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
12 合計特殊出生率		1.30	1.58	1.42	1.09	D	36位(4位)	39位(4位)	↔
13 待機児童数[4月1日時点]	人	12	0	0	22	D	19位(4位)	31位(6位)	↓
14 地域の行事に参加している生徒の割合[中学生]	%	62.9	64.0	64.0	—	—	3位(1位)	—	—
15 総実労働時間[年間]	時間	1,761.6	1,633.0	1,684.4	1,729.2	D	44位(3位)	45位(4位)	↓
16 共働き世帯の男性の家事時間割合[過平均]*	%	39.2	50.0	45.0	42.6	D	—	—	—
17 犬、猫の返還・譲渡率	%	犬 100	100	100	100	A	—	—	—
		猫 98.8	100	99.4	100	A	—	—	—

* 女性の家事時間に対する割合

【参考指標】

調査項目	単位	現状値(R3)	R6	備考
4 共働き男性の家事時間	分	125	133	—
5 共働き女性の家事時間	分	319	312	—
6 50歳時未婚率	%	男性 ② 29.61	—	5年ごとの公表
		女性 ② 16.70	—	5年ごとの公表

令和7年度の評価結果

[政策評価の結果]

家族・子育て分野の評価結果	評価の説明
C いわて幸福関連指標の達成度 	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標6指標は、達成度Aの指標が2指標(33%)、達成度Dの指標が4指標(67%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感、「家族関係」、「子育て」がともに横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、動物のいのちを大切にする社会づくりや地域やコミュニティにおいて、学校と家庭、住民が協働して子どもの育ちと学びを支える取組が進みましたが、仕事と生活を両立できる環境づくりの取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、NPOや地域の民間団体、住民有志など、様々な主体による子どもの居場所づくりの取組や体験活動の機会提供が広がるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Cと判断しました。

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目	分野別実感の平均値			
	参考[H31]	基準年[R5]	実績値[R7]	基準年との比較
(家族関係) 家族と良い関係がとれていると感じますか	3.84	3.91	3.91	横ばい
(子育て) 子育てがしやすいと感じますか	3.08	3.06	3.07	横ばい

Ⅲ 教育

学びや人づくりによって、
将来に向かって可能性を伸ばし、
自分の夢を実現できる岩手



令和7年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



ICT機器を活用した授業

「個別最適な学び」と「協働的な学び」を実現するため、ICT機器を活用した授業に取り組んでいます。



県立二戸北星支援学校校舎新築

特別支援学校の教育環境の充実を図るため、新たに二戸地区への特別支援学校の設置に向けた整備を実施しています。



津波防災出前講座

「いわての復興教育」プログラムを踏まえ、津波防災施設の効果や限界、避難の必要性など、東日本大震災津波の教訓を「学び」に活かすため、津波防災出前講座を実施しました。



世界と岩手をつなぐ地域の国際化
人材育成事業 北米派遣研修

地域の国際人材を育成するため、県内高校生8名をアメリカに派遣し、現地学生等との交流を通じ、英語によるコミュニケーションの実践に取り組まれました。



スーパーキッズ発掘・育成事業

岩手から世界で活躍するトップアスリートを輩出するため、スーパーキッズに認定された児童・生徒を対象に競技体験トレーニング等の様々なプログラムを実施しました。



企業採用担当者と高等教育機関
就職支援担当者との交流会

学生の県内定着に向けて、企業のインターンシップの取組や、学生の就職活動の動向などの情報交換を行いました。

今後の主な取組内容

- 日々の授業や学校生活と体験活動との結びつきを意識した事前・事後指導により、体験的学習の質の向上を図ることやキャリア・パスポートの活用による学習経験と将来の夢や目標を接続することなどを通して、将来の夢や目標を実感する機会の確保に取り組みます。
- 不登校の未然防止、適切な支援を推進するため、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等と連携した学校の教育相談体制の充実や、教育支援センターによる相談機能の充実に継続して取り組みます。
児童生徒の悩みについて、1人1台端末等を利用した教育相談「こころの相談室」や児童生徒の心身の変化を把握する「心の健康観察」の導入・成果の共有等、教育相談体制の充実を推進します。また、県立図書館に設置した県教育支援センター「ふれあいルーム盛岡」において、不登校児童生徒やその保護者に対する支援の充実に取り組みます。
さらに、不登校児童生徒一人ひとりの状況に応じた支援のため、学校内外の教育支援センターの設置を推進します。
- 高等教育機関との連携により、地域課題解決に向けた共同研究や持続可能なリカレント教育の体制構築を推進するとともに、「いわて高等教育地域連携プラットフォーム」の枠組みを活用し、インターンシップの活用促進や、県内就職を希望する学生と求人企業とのマッチング支援、U・Iターンを促進する取組を強化するなど、産学官で連携して学生の県内定着に向けた効果的な取組を推進します。
- 東日本大震災津波の経験や教訓を継承するために、社会教育施設における復興・防災教育の充実を図るとともに、「いわての復興教育」プログラムに基づく副読本を活用し、教科横断的な復興教育を推進するほか、「いわての復興教育」絵本を活用し、未就学児への復興教育の充実に取り組みます。

令和7年度の評価結果

[政策評価の結果]

教育分野の評価結果	評価の説明
B	
いわて幸福関連指標の達成度	
<p>18 指標</p> <p>A 8 指標 44%</p> <p>B 7 指標 39%</p> <p>D 3 指標 17%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標 18 指標は、達成度 A、B の指標が 15 指標 (83%)、達成度 D の指標が 3 指標 (17%) でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「子どもの教育」が横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、児童生徒の健やかな体を育む取組や児童生徒が安全に学ぶことができる教育環境の整備や教職員の資質の向上を進める取組が進みましたが、地域に貢献する人材の育成の取組や、高等教育機関と連携した地域づくり・人づくりの取組については、やや遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、各市町村教育委員会において、調査結果から見られた課題等を各学校の指導計画に反映させ、教育活動全体で確かな学力の育成に向けた取組に対する支援が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、B と判断しました。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (R3)	計画目標値 (R8)	年度目標値 (R6)	実績値 (R6)	達成度	参考) 全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
19	%	小 82.5	82.5	82.5	83.8	A	—	—	—
20		中 85.4	85.4	85.4	83.2	B	—	—	—
21	%	小 83.0	83.0	83.0	87.2	A	—	—	—
22		中 83.5	83.5	83.5	88.7	A	—	—	—
23	%	小 68	70	70	65	B	—	—	—
24		中 67	68	68	65	B	—	—	—
25		高 62	70	67	61	D	—	—	—
26	%	小 76.4	80.0	78.0	80.6	A	—	—	—
27		中 76.2	79.0	78.5	81.8	A	—	—	—
28	%	小 男子 68.9	70.0	70.0	67.2	B	10位 (2位)	11位 (2位)	(→)
29		小 女子 79.1	80.0	80.0	74.4	B	8位 (2位)	10位 (2位)	(→)
30		中 男子 74.8	75.0	75.0	75.0	A	5位 (2位)	8位 (2位)	(→)
31		中 女子 88.8	90.0	90.0	83.9	B	7位 (1位)	9位 (2位)	(↓)
32	特別支援学校が適切な指導・支援を行っていると感じる保護者の割合	96.0	96.0	96.0	98.1	A	—	—	—
33	高卒者の県内就職率	74.1	84.5	84.5	70.8	B	33位 (5位)	—	—
34	%	小 82.1	84.0	83.3	83.6	A	—	—	—
35		中 72.8	76.0	74.5	70.8	D	—	—	—
36	県内大学等卒業者の県内就職率	47.0	50.0	49.0	39.8	D	— (1位)	— (3位)	(↓)

[参考指標]

調査項目	単位	現状値 (R3)	R6	備考
8 学力が全国水準未満の児童生徒の割合	%	小 国語 50	42	—
		小 算数 42	55	—
		中 国語 37	47	—
		中 数学 57	59	—
12 不登校児童生徒数(千人当たり)	人	小 8.4	17.9	—
		中 39.6	61.3	—
		高 19.8	23.7	—

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]



県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

IV 居住環境・コミュニティ

不便を感じないで日常生活を送ることができ、
また、人や地域の結び付きの中で、
助け合って暮らすことができる岩手



令和7年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



污水处理の持続的な運営

県と市町村が連携して「いわて污水处理ビジョン2025」を策定するとともに、流域下水道事業が将来にわたって安定的に事業を継続していくための「岩手県流域下水道事業経営戦略(2025～2034)」を策定するなどし、污水处理の持続的・安定的な運営に取り組んでいます。



景観形成を通じた地域の魅力向上

子どもたちが地域の景観の魅力や個性を考える景観学習や、県内外に本県の景観のすばらしさを伝えるための「希望郷いわて景観フォトコンテスト」を実施しました。



地域おこし協力隊初任者・担当職員向け研修会

地域おこし協力隊の初任者と、受入れを担当する市町村職員が会し、制度趣旨や優良事例など、双方にとって有益な情報を共有しました。



いわておかえりプロモーション

お盆及び年末年始の帰省時期に、県外からの帰省者やその家族に対して、「いわてで働く魅力」や「Uターン移住・就職に関する支援窓口・制度」をPRする「いわておかえりプロモーション」を実施しました。



南米と岩手を結び関係人口創出事業

南米地域に本県の魅力をPRし、新たなネットワークの構築や関係人口の拡大を図るため、ブラジル岩手県人会に県内の若者2名を3週間派遣しました。



復興の絆を生かした演奏会

復興支援で培った絆を生かして、著名な音楽家等による演奏会を開催し、県内の子どもたちと共演しました。

今後の主な取組内容

- 市町村等との連携体制を強化し、空き家の発生抑制や利活用を促進するとともに、市町村の空き家バンクに登録された空き家住宅の取得又は改修に係る支援に取り組みます。
- 下水道施設の整備を計画的に進めるとともに、汚水処理に係る出前講座の実施や浄化槽設置補助制度の周知等の普及啓発に取り組みます。
- 国や市町村等と連携し、広域バス路線や鉄道の維持・確保、持続可能な地域公共交通ネットワークの構築、地域公共交通の利用促進に取り組みます。
- 市町村等と連携し、持続可能で、人と人との「つながり」を実感できる地域コミュニティづくりに向け、人材育成や地域運営組織の形成促進、特定地域づくり事業協同組合の設立支援等に取り組むとともに、自主防災組織の組織化・活性化に向け、防災人材の育成や活動支援に取り組みます。
また、一般社団法人いわて地域おこし協力隊ネットワークと連携し、地域おこし協力隊*の受入拡大やスキルアップの向上等に加え、退任後の定着に向けた支援の強化に取り組みます。
- 市町村や関係団体等と連携し、移住希望者の多様なニーズに対応するための相談機能を強化するとともに、若者や女性等に対し、若手で働き、暮らすことの魅力や優位性を的確に発信することにより、東京圏をはじめ、全国からのU・Iターンを一層促進します。
- 世界と岩手のつながりを一層深めていくため、若者等がグローバルな視点で将来を考える機会の提供や外国人相談支援体制の充実等に取り組むとともに、ハロウインターナショナルスクール安比ジャパンとの連携等、地域との交流や国際化、多文化共生等を推進します。

【用語解説】

* 地域おこし協力隊:人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を通じて、その定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていくことを目的とした制度。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (R3)	計画目標値 (R8)	年度目標値 (R6)	実績値 (R6)	達成度	参考) 全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
37 県外からの移住・定住者数	人	1,584	2,500	2,030	1,779	D	—	—	—
38 汚水処理人口普及率	%	84.4	91.1	89.4	85.9	D	35位 (5位)	37位 (5位)	↓ (⇄)
39 三セク鉄道・バスの一人当たり年間利用回数	回	10.2	16.5	16.3	11.1	D	—	—	—
40 地縁的な活動への参加割合	%	33.3	44.5	38.5	33.3	D	—	—	—
41 在留外国人数 (10万人当たり)	人	597.0	849.2	743.8	985.0	A	45位 (4位)	45位 (4位)	→ (⇄)
42 文化・スポーツ施設の入場者数 (文化施設入場者数)*1	千人	② 33	⑦ 185	⑤ 145	⑤ 162	A	—	—	—
43 文化・スポーツ施設の入場者数 (スポーツ施設入場者数)*2	万人	486	757	649	639	B	—	—	—

*1 岩手県内公立文化施設協議会加盟施設で行う自主催事入場者数
*2 県及び県内市町村の公立スポーツ・レクリエーション施設入場者数

【参考指標】

調査項目	単位	現状値 (R3)	R6	備考
15 三セク鉄道・バスの年間利用者数	万人	1,214	1,274	—
16 持ち家比率	%	⑩ 69.9	⑤ 70.3	5年ごとの公表

令和7年度の評価結果

[政策評価の結果]

居住環境・コミュニティ分野の評価結果	評価の説明
<h1 style="font-size: 2em;">D</h1> <p>いわて幸福関連指標の達成度</p> <p>7指標 A 2指標 29% B 1指標 14% D 4指標 57%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が3指標(43%)、達成度Dの指標が4指標(57%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感、「住まいの快適さ」、「地域社会とのつながり」がともに横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、海外の多様な文化を理解し、共に生活できる地域づくりや、文化芸術・スポーツを生かした地域づくりが進みましたが、地域の暮らしを支える公共交通を守る取組や、つながりや活力を感じられる地域コミュニティを守り育てる取組については、やや遅れが見られ、若手で暮らす魅力を高め、移住・定住を促進する取組については、遅れが見られました。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において、地域おこし協力隊等による、地域内の自発的な活性化や担い手の育成支援に向けた取組が行われるなど県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Dと判断しました。

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]

調査項目	分野別実感の平均値			
	参考[H31]	基準年[R5]	実績値[R7]	基準年との比較
(住まいの快適さ) 住まいに快適さを感じますか	3.34	3.29	3.30	横ばい
(地域社会とのつながり) 地域社会とのつながりを感じますか	3.35	3.07	3.12	横ばい

V 安全

災害をはじめとした様々なリスクへの備えがあり、
事故や犯罪が少なく、
安全で、安心を実感することができる岩手



- 侵入窃盗、乗物盗及び特殊詐欺等の被害を防止するため、鍵かけモデル地区や乗物盗被害多発施設の利用者に対する鍵かけ意識の啓発活動、自治体や関係機関等と協働した啓発活動の継続、テレビCM放送等による犯行手口と対策の広報、金融機関やコンビニエンスストア等の関係機関と連携した水際対策の推進等に取り組みます。
- 高齢者による交通事故を減少させるため、高齢者への在宅訪問活動を強化し交通安全情報の発信に取り組むほか、過去の事故多発日に基づき集中対策期間を設け、運転者・歩行者双方の安全意識を高める街頭活動や関係機関・団体と連携した広報啓発活動を推進します。
- 高病原性鳥インフルエンザや豚熱の発生に備え、危機管理体制や防疫作業支援班の編成を見直し、迅速かつ柔軟に対応可能な体制の構築に取り組むとともに、適切な防疫活動のため、市町村職員も対象とした家畜防疫作業支援班研修会の開催等に取り組みます。

【用語解説】

※ 復興防災DX研究会：県が災害対応に係る様々な場面でのデジタル技術の活用の方向性等について検討するために設けた、有識者から意見を聴取する場のこと。

令和7年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



いわて防災DX展

デジタル技術を活用した災害対応力強化を促進するため、防災DXに係る講演、避難者把握システムやドローンの操作等を体験できるイベントを行いました。



避難所運営ゲーム(HUG)の体験実習

市町と共同で岩手県総合防災訓練を実施し、避難所運営を疑似体験できる避難所運営ゲーム(HUG)の体験実習を行いました。



地域防災サポーターの派遣

防災に関する資格や経験を持つ地域防災サポーターを学校等に派遣し、防災に関する普及啓発に取り組んでいます。



交通安全運動の実施

季節ごとに開催している交通安全運動の機会等を通じ、交通事故防止に向けた広報啓発に取り組んでいます。



特殊詐欺被害防止の広報啓発活動

岩手ゆかりのタレントを起用したCM動画の制作など、手口や対策を広報啓発する活動を推進しています。



消費生活出前講座等の実施

消費者教育の充実のため、企業、各種団体、学校などを対象に、出前講座や消費生活セミナー等を実施し、被害の早期発見や救済の方法等の普及啓発に取り組んでいます。

今後の主な取組内容

- 「巨大地震・津波対策連絡会議」を通じて、地震・津波対策に取り組む沿岸市町村への支援を行うとともに、「復興防災DX研究会※」による調査・研究の成果を活用し、デジタル技術を活用した市町村等の災害対応力の強化の促進等に取り組みます。
- 防災人材の派遣による自主防災組織の結成の促進や活動支援、消防団員の加入促進に向けた広報の充実、女性消防団員との意見交換等に取り組むとともに、今後の地域防災力の在り方や多様な主体の参画等について検討を行うため、有識者等による検討会議を新たに設置し取組を推進します。

令和7年度の評価結果

〔政策評価の結果〕

安全分野の評価結果	評価の説明
C	
いわて幸福関連指標の達成度	
	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標5指標は、達成度Aの指標が2指標(40%)、達成度Bの指標が1指標(20%)、達成度Dの指標が2指標(40%)でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「地域の安全」が低下しました。 ● この分野の取組状況は、食の安全・安心を確保し、地域に根ざした食育の取組や感染症による脅威から一人ひとりの暮らしを守る取組が進みましたが、自助、共助、公助による防災体制をつくる取組については、遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、市町村において防災士等の取得を促し、自主防災組織の中核を担う人材の育成に取り組むなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Cと判断しました。

〔いわて幸福関連指標の達成状況〕

指標名	単位	現状値 (R3)	計画目標値 (R8)	年度目標値 (R6)	実績値 (R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
44 自主防災組織の組織率	%	88.5	91.8	90.4	88.7	D	27位(2位)	—	—
45 刑法犯認知件数	件	2,507	2,300	2,470	3,319	D	2位(2位)	2位(2位)	→ (→)
46 交通事故発生件数(千人当たり)	件	1.29	1.10	1.18	1.20	B	4位(1位)	4位(2位)	→ (↓)
47 食中毒の発生人数(10万人当たり)	人	1.3	7.3	7.3	3.4	A	4位(2位)	5位(2位)	↓ (→)
48 新興感染症に対応可能な公立・公的医療機関等の数*	機関	—	60	37	63	A	—	—	—

※ 入院受入医療機関と外来診療医療機関の計

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]



県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

VI 仕事・収入

農林水産業やものづくり産業などの
活力ある産業のもとで、安定した雇用が確保され、
また、やりがいと生活を支える所得が得られる
仕事につくことができる岩手



コラム

岩手の幸福に関する指標の体系図

いわて県民計画においては、県民や岩手県に関わる方の幸福を守り育てるため、10の政策分野を設定するとともに、それぞれに「いわて幸福関連指標」を設定して取組を展開することとしています。

この10の政策分野や「いわて幸福関連指標」の設定に当たっては、県民の「幸福」について把握する方法を研究するために設置した「岩手の幸福に関する指標」研究会において示された「岩手の幸福に関する指標の体系」をもとに検討が進められました。



【参照】「岩手の幸福に関する指標」研究会報告書

令和7年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



**県内高等教育機関と連携した
県内企業の魅力等を伝える講座**
大学や専門学校などの授業を活用し、県内企業の若手社員から企業の魅力や社会人としての経験を語ってもらう講座を開催しました。



**いわて半導体関連人材育成施設
(I-SPARK)**
集積が進む半導体関連産業の更なる発展に向け、産学官連携により半導体製造装置エンジニアの育成、次世代人材育成、体験型魅力発信を図る「いわて半導体関連人材育成施設(I-SPARK)」を令和7年4月に開所しました。



北米トップセールス
県産品の認知度向上・販路拡大を図るため、ドジャースタジアムでの県産品プロモーションなど、北米でのトップセールスを実施しました。



「白銀のひかり」デビューイベント
県北地域向け県オリジナル水稲新品種「白銀のひかり」発売を記念したイベントが開催され、ロゴマークがお披露目されました。



**大宮駅岩手産直市での
被災木利用に向けたPR**
大船渡市林野火災の被災木利用への理解を醸成するため、大宮駅で実施したイベントで、被災木の利用に向けたPRを行いました。



**県有種雄牛「菊美翔平」産子の
本格上場**
産肉能力に優れた県有種雄牛「菊美翔平」の産子が本格的に上場されるのに合わせ、子牛市場でPRを実施しました。最高価格は100万円を超えるなど、高い評価を得ました。

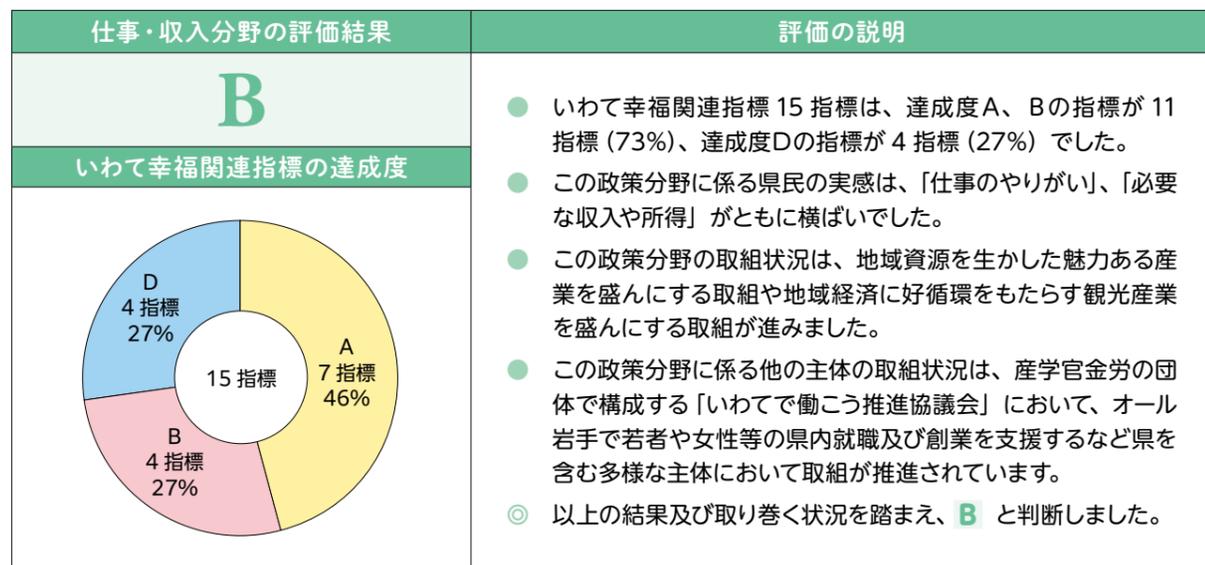
今後の主な取組内容

- 県内企業・事業の収益力向上に向けて、適切な価格転嫁の促進や、企業の経営力の強化、デジタル技術の活用等による生産性の向上、新たな事業活動等の取組を促進するとともに、成長が見込まれる海外市場に対し、意欲ある事業者の海外展開を進めるため、関係機関と連携し、貿易実務と商談スキルを学ぶ機会や商談機会の確保、ECサイト活用によるオンライン販売への新規進出等の販路拡大の支援を行い、県内企業・事業者の収益力向上に取り組めます。

- 「いわて働き方改革推進運動」の展開等により、企業等のデジタル技術等を活用した労働生産性の向上、長時間労働の是正を推進するとともに、持続的な賃上げを実現するため、商工指導団体の継続的な支援による環境整備や、専門家派遣等を通じた経営改善や販路開拓のアドバイスを行うなど、中小企業への伴走型支援を推進します。
- 物価高騰対策にかかる支援、就職氷河期を含めたミドル世代への個別支援を行うとともに、国や市町村等と連携し、経済団体等に対する要請活動等を行うなど、安定的な雇用の確保に取り組みます。
- 若者や女性への県内企業の認知度や採用力の向上を促進するため、「いわてで働こう推進協議会」を核として、企業の魅力向上に向けた取組を推進するとともに、県内企業ガイダンスや企業見学会の実施、教員や保護者が県内企業を知る機会を創出するなど、魅力ある県内企業の認知度向上に取り組みます。
- 県内において継続的に起業家が生まれ出される仕組みの構築に向け、県内の産学官金の連携による「いわてスタートアップ推進プラットフォーム」を核として、起業マインドの醸成や経営能力の向上等の取組を推進するとともに、起業家数の増加に向け、制度融資等を通じて、創業時から成長期等、個々の企業のライフステージに対応した資金調達の支援に取り組みます。
- 観光で稼ぐ力を高めるため、データに基づくマーケティング分析を実施し、観光関連事業者のみならず、地域の様々な事業者が連携した消費者目線での旅行商品の造成や、観光コンテンツの開発・磨き上げを行うことにより、誘客促進や受入態勢整備を進め、魅力ある観光地域づくりと観光消費額の拡大を促進します。
- 令和7年度から本格的に生産している県オリジナル水稲品種「白銀のひかり」の普及、高温登熟耐性を持つ水稲品種の早期開発等、生産性・市場性の高い産地づくりの推進に取り組みます。
また、令和7年2月に発生した大船渡市林野火災で被災した森林の早期復旧に向け、被災木の伐採・搬出や利用、再造林の支援に取り組みます。

令和7年度の評価結果

〔政策評価の結果〕



〔いわて幸福関連指標の達成状況〕

指標名	単位	現状値 (R3)	計画目標値 (R8)	年度目標値 (R6)	実績値 (R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
49 一人当たり県民所得の水準 ^{*1}	%	① 87.4	⑥ 90.0	④ 90.0	④ 82.7	B	—	—	—
50 正社員の有効求人倍率	倍	0.88	1.00	1.00	0.92	B	34位 (6位)	38位 (6位)	↔ (→)
51 総実労働時間(年間)【再掲】	時間	1,761.6	1,633.0	1,684.4	1,729.2	D	44位 (3位)	45位 (4位)	↘ (↘)

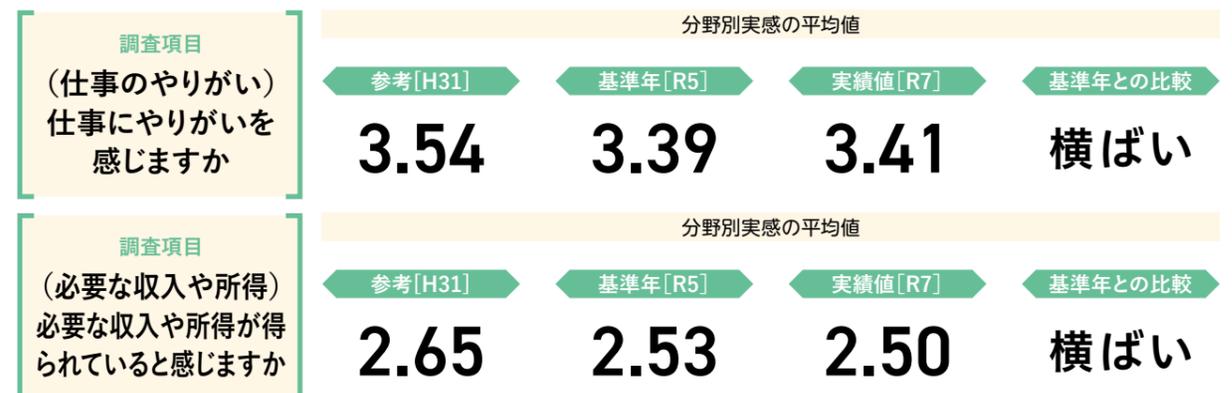
指標名	単位	現状値 (R3)	計画目標値 (R8)	年度目標値 (R6)	実績値 (R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
52 完全失業率	%	2.4	2.0	2.0	2.4	B	15位 (2位)	29位 (2位)	↘ (→)
53 高卒者の県内就職率【再掲】	%	74.1	84.5	84.5	70.8	B	33位 (5位)	—	—
54 女性の全国との賃金格差 ^{*1}	%	84.4	89.4	87.0	83.3	D	44位 (4位)	45位 (5位)	↘ (↘)
55 従業者一人当たりの付加価値額	千円	② 5,717	⑦ 6,006	⑤ 5,889	⑤ 6,093	A	②37位 (4位)	⑤42位 (5位)	↘ (↘)
56 開業率 ^{*2}	%	② 3.2	⑦ 3.6	⑤ 3.4	⑤ 2.7	D	②44位 (4位)	⑤41位 (3位)	↗ (↗)
57 従業者一人当たりの製造品出荷額	百万円	② 29.6	⑥ 31.0	④ 30.3	④ 35.9	A	②37位 (4位)	④27位 (2位)	↗ (↗)
58 観光消費額	億円	② 1,142.3	2,042.9	1,829.5	1,992.7	A	②— (5位)	—	—
59 農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	② 5,312	⑦ 5,810	⑤ 5,530	⑤ 6,353	A	—	—	—
60 林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	② 4,377	⑦ 4,910	⑤ 4,770	⑤ 5,320	A	—	—	—
61 漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	② 4,179	⑦ 4,200	⑤ 4,020	⑤ 6,344	A	—	—	—
62 農林水産物の輸出額	億円	43.0	69.0	57.0	46.8	D	—	—	—
63 グリーン・ツーリズム交流人口	千人回	1,090	1,220	1,200	1,303	A	—	—	—

※1 全国を100とした水準 ※2 雇用保険が新規に成立した事業所の比率

〔参考指標〕

調査項目	単位	現状値 (R3)	R6	備考
17 非正規職員・従業員率	%	⑳ 35.7	—	5年ごとの公表
18 雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	① 4,043	④ 4,191	—
19 現金給与総額(5人以上、毎月)	円	282,811	304,582	—
20 農業産出額	億円	2,651	⑤ 2,975	—
21 林業産出額	千万円	② 1,782	⑤ 1,923	—
22 漁業産出額	千万円	② 3,057	⑤ 4,199	—
23 製造品出荷額	億円	② 24,943	⑤ 31,247	—
24 ものづくり関連分野の製造品出荷額	億円	② 16,830	⑤ 22,220	—
25 食料品製造出荷額	億円	② 3,769	⑤ 4,362	—
26 水産加工品製造出荷額	億円	② 674	⑤ 653	—
27 事業所新設率	%	⑳~① 11.7	—	—

〔県民意識調査の結果(分野別実感の状況)〕



VII 歴史・文化

豊かな歴史や文化を受け継ぎ、
愛着や誇りを育んでいる岩手



また、3つの世界遺産に係る一体的な価値普及と魅力発信、地域住民の交流機会の創出に取り組むとともに、「ひらいずみ遺産*」等を拠点とする文化観光の取組を推進します。

- 「岩手県民俗芸能フェスティバル」等における若手演者の出演機会や出演団体同士の交流機会の確保のほか、子どもたちが民俗芸能を体験する機会の創出等により、豊かな歴史や民俗芸能等の伝統文化を次世代へ引き継ぐ取組を推進します。

また、ホームページの利便性向上やSNS等を活用した情報発信による歴史資源や伝統文化の理解促進等に取り組むほか、民俗芸能等の鑑賞・体験機会の創出等による伝統文化や文化財を活用した交流人口の拡大に取り組みます。

【用語解説】

※ ひらいずみ遺産:県と関係市町において、世界遺産の構成資産とその関連資産の一体的な保存管理や研究調査、活用を進めるために位置付けた該当資産の総称。世界遺産の構成資産5資産(中尊寺、毛越寺、無量光院跡、観自在王院跡、金鶏山)と関連資産5資産(柳之御所遺跡、骨寺村荘園遺跡、白鳥館遺跡、長者ヶ原廃寺跡、達谷窟)の10資産を対象としている。

令和7年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



世界遺産出前授業

県内の子どもたちに、本県の3つの世界遺産の価値を伝え、郷土への愛情と誇りが高まるよう、世界遺産出前授業を開催しました。



教員現地研修会

世界遺産の理解を深め、学校での教育活動の一助となるよう教員等を対象とした研修会を開催しました。



いわて3つの世界遺産
パネル巡回展

本県が有する3つの世界遺産の価値や魅力を発信するため、県内6箇所、県外2箇所で開催しました。



県立平泉世界遺産
ガイダンスセンター

「平泉」の価値を広く世界中に伝え、後世へ継承するための拠点となる施設として、開館5年目を迎えました。



北海道・東北ブロック
民俗芸能大会

北海道・東北地区に伝承されている民俗芸能を広く一般に公開し、民俗芸能の保存・継承活動を促進するため、「第67回北海道・東北ブロック民俗芸能大会」を本県で開催しました。



県指定文化財の新規指定

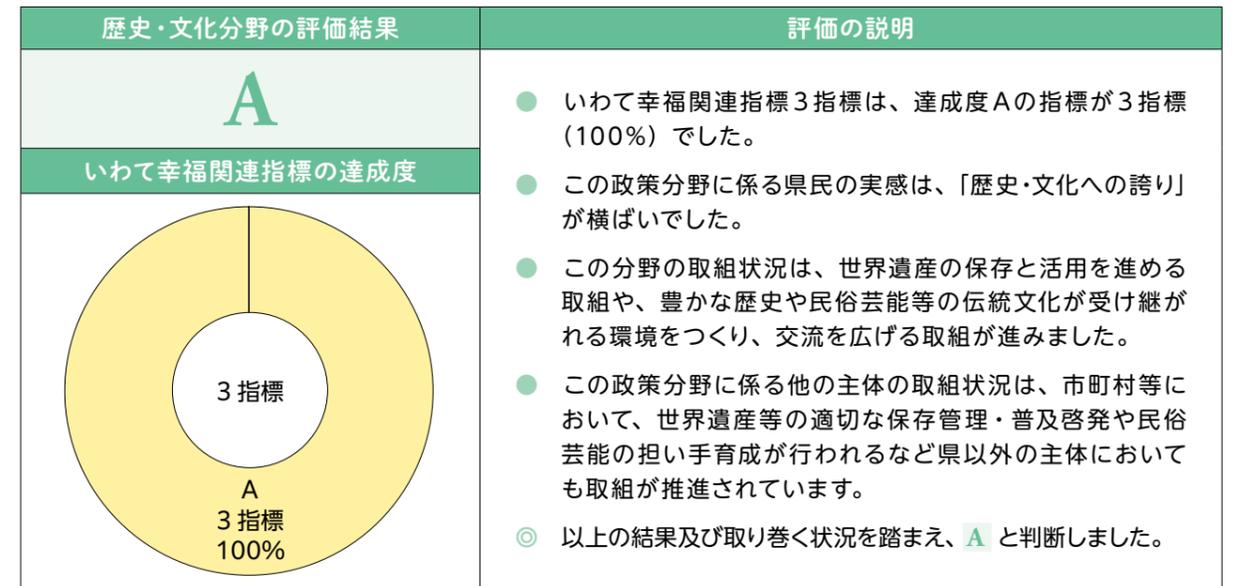
文化財の保存・活用のため、「久慈地方の牛方関係資料」など3件を、新たに県指定文化財として指定しました。

今後の主な取組内容

- 保存管理計画に基づく世界遺産等の適切な保存管理や「平泉の文化遺産」の世界遺産への拡張登録に向けた取組、学校教育活動を通じた保存・継承への意識の醸成を推進します。

令和7年度の評価結果

〔政策評価の結果〕



〔いわて幸福関連指標の達成状況〕

指標名	単位	現状値(R3)	計画目標値(R8)	年度目標値(R6)	実績値(R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
64 世界遺産等の来訪者数	千人	417	991	805	807	A	—	—	—
65 国、県指定文化財件数	件	574	589	583	588	A	31位(3位)	30位(3位)	↑(→)
66 民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	393	393	393	429	A	—	—	—

〔県民意識調査の結果(分野別実感の状況)〕



VIII 自然環境

一人ひとりが恵まれた自然環境を守り、
自然の豊かさとともに暮らすことができる岩手



今後の主な取組内容

- 野生鳥獣の計画的な管理のため、被害をもたらす鳥獣の捕獲やモニタリング調査等の被害防止対策に取り組みます。
特に、ツキノワグマについては、令和6年4月に指定管理鳥獣に追加されたことや、人の日常生活圏にクマ等が出没した場合に、地域住民の安全確保等の条件の下で銃猟を可能とする改正鳥獣保護管理法が令和7年9月1日から施行されたことなどを踏まえ、捕獲や環境整備、市街地出沒時対応訓練等総合的な被害防止対策を強化して取り組みます。
- 「温室効果ガス排出量の2050年度実質ゼロ」の実現に向けて、温暖化防止いわて県民会議を中核として県民、事業者総参加による県民運動を推進します。
また、地域経済と環境の好循環に向けて、市町村や発電事業者等との連携による地域に裨益する*再生可能エネルギーの導入を促進します。

【用語解説】

* 地域に裨益する:「地域の役に立つこと」であり、エネルギーの地域内循環、売電収入等の地域還元などのこと。

令和7年度の取組と今後の取組方向

【取組状況】



ツキノワグマ市街地
出沒時対応訓練

クマの市街地出沒に備え、緊急銃猟に係る対応を含む、関係機関との訓練（机上訓練、実地訓練）を実施しました。



水生生物調査

環境保全活動の普及啓発のため、川の生きものを調べて水のきれいさを判定する水生生物調査の実施にあたり、教材の提供や講師の派遣を行いました。



第15回いわての森林の感謝祭

森林がもたらす恩恵に感謝し、森林づくりに対する県民の理解を深めるイベントとして、地元の小・中学生による「みどりの誓い」や植樹活動等を北上市で実施しました。



環境月間3R啓発活動

6月の環境月間に合わせ、大型商業施設において3R（リデュース・リユース・リサイクル）の実践を呼びかける普及啓発活動を実施しました。



いわてカーボンフリー・アクション
(ICFA)の取組

県内大学生による学生プロジェクトチーム「いわてカーボンフリー・アクション（ICFA）」において、脱炭素につながる広報活動を行いました。



第13回地熱シンポジウムin岩手

「地熱シンポジウム in 岩手」の開催を支援するなど、再生可能エネルギーの導入を促進しました。

令和7年度の評価結果

【政策評価の結果】

自然環境分野の評価結果	評価の説明
B	
いわて幸福関連指標の達成度	
	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が6指標（86%）、達成度Dの指標が1指標（14%）でした。 ● この政策分野に係る県民の実感は、「自然のゆたかさ」が横ばいでした。 ● この分野の取組状況は、多様で優れた環境を守り、次世代に引き継ぐための取組や、循環型地域社会の形成を進める取組が進みましたが、地球温暖化防止に向けた脱炭素社会の形成を進める取組にやや遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、令和7年9月現在、25市町村が「2050年二酸化炭素排出実質ゼロ」を表明し、再生可能エネルギーの地産地消に向けた取組が行われるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Bと判断しました。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値 (R3)	計画目標値 (R8)	年度目標値 (R6)	実績値 (R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
67 岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数(イヌワシつがい数)	ペア	26	26	26	24	B	—	—	—
68 岩手の代表的希少野生動物の個体・つがい数(ハヤチネウスユキソウ個体数)	花茎	④ 115	115	115	142	A	—	—	—
69 自然公園の利用者数*	千人	339	493	431	433	A	—	—	—
70 公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	95.7	95.7	95.7	97.4	A	—	—	—
71 再生可能エネルギーによる電力自給率	%	38.6	56.2	51.0	43.3	D	—	—	—
72 一般廃棄物の最終処分量	千t	② 37.8	⑦ 35.8	⑤ 36.6	⑤ 34.8	A	②16位(3位)	⑤20位(3位)	↓ (→)
73 一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	② 520	⑦ 493	⑤ 507	⑤ 497	A	②17位(1位)	⑤24位(1位)	↓ (→)

* 自然公園ビジターセンター等利用者数

【参考指標】

調査項目	単位	現状値 (R3)	R6	備考
28 森林面積割合	%	① 74.6	—	5年ごとの公表

[県民意識調査の結果(分野別実感の状況)]



県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

IX 社会基盤

防災対策や産業振興など幸福の追求を支える社会基盤が整っている岩手



令和7年度の取組と今後の取組方向

[取組状況]



河川改修等の推進

平成28年台風第10号により被害を受けた岩手町の小本川の復旧・復興工事が完了するなど、「流域治水」の考え方を踏まえた防災・減災対策を推進しています。



災害に強い道路ネットワークの構築

令和3年5月に発生した地すべりを踏まえ整備を進めてきた国道107号大石地区の大石トンネルの供用を開始するなど、災害に強い道路ネットワークの構築に取り組んでいます。



自転車通行空間の整備

自転車通行空間の整備を進めるとともに、自転車を活用した観光振興等を促進するため、岩手県広域サイクリングルートを活用した「サイクリングツアー2025」を開催しました。



クルーズ船の寄港拡大

観光振興や地域振興に資するクルーズ船の寄港拡大に取り組み、令和7年度の寄港回数は、外国船13回、日本船5回の合計18回(予定)と、過去最多となる見込みです。



高校生との協働によるインフラメンテナンス

県内の高校生との協働による橋梁点検などにより、将来のインフラメンテナンスの担い手の確保・育成に取り組んでいます。



東京大学大気海洋研究所三陸ふるさと社会協創センターの設置

東京大学大気海洋研究所に「三陸ふるさと社会協創センター」が令和7年9月に新たに設置され、研究成果を社会実装につなげ、地域に還元するための拠点が整備されました。

今後の主な取組内容

- 県民の豊かな暮らしの実現に向け、各分野のDX^{*1}を推進するため、5Gなどの情報通信インフラの整備を促進し、誰もが高度なデジタル技術を活用できる機会の提供を推進するとともに、行政手続オンライン化や市町村との情報システムの共同利用推進などによる県民サービスの拡充に取り組みます。
- 産学官連携による共同研究の取組、県内企業の加速器関連産業への参入支援や技術力向上等のILC実現に向けた取組を推進します。

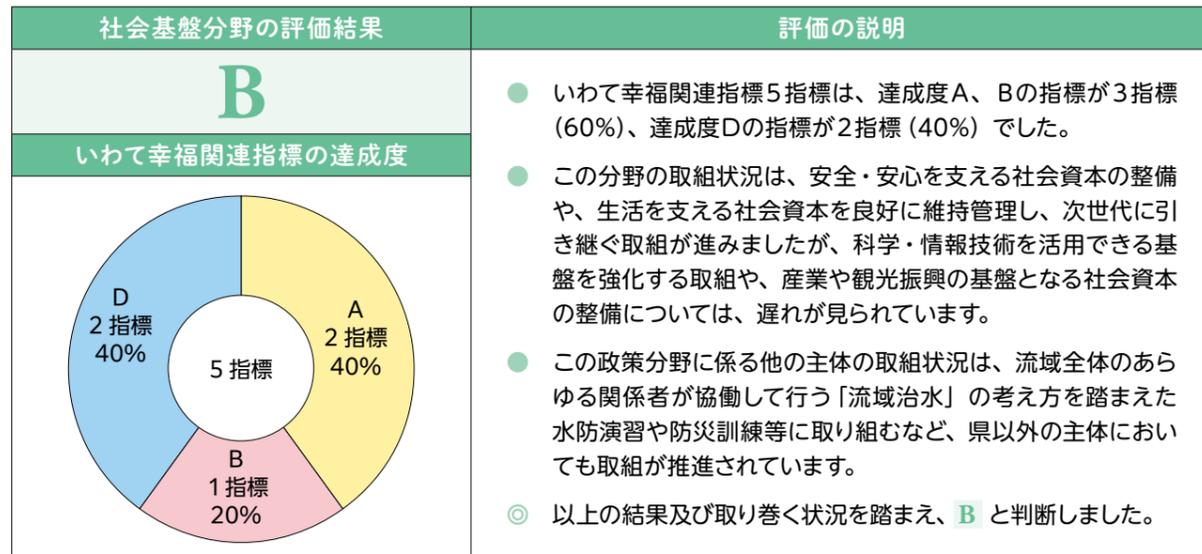
- 自然災害から県民の暮らしを守るため、流域全体のあらゆる関係者が協働して行う「流域治水^{*2}」の考え方を踏まえ、河川改修や砂防施設の整備等のハード対策と、災害関連情報の充実強化等のソフト施策を効果的に組み合わせた防災・減災対策を推進します。
また、幹線道路の整備や緊急輸送道路等の防災機能の強化等の災害に強い道路ネットワークの構築、救急搬送ルートや通学路等への歩道の整備、自転車通行空間の整備等の日常生活を支える安全・安心な道づくり、公共建築物の耐震化等に取り組みます。
- 物流の効率化など生産性の向上や観光振興を図るため、内陸部と港湾を結ぶ道路や主要な観光地を結ぶ道路の整備等を推進するとともに、港湾施設の整備や維持管理、利活用の促進に取り組みます。
- 建設業を取り巻く社会経済情勢が変化する中であっても、県内建設企業が地域から期待される役割を将来にわたって果たしていけるよう、誰もが働きやすく、働きがいのある建設業界を目指し、「いわて建設業振興中期プラン2023」に基づき、担い手の確保・育成や働き方改革の推進や生産性の向上等に取り組みます。

【用語解説】

- ※1 DX(デジタル・トランスフォーメーション):デジタル化を手段として、既存の価値観や枠組みを見直す変革を行い、課題解決や新しい価値を創造すること。
- ※2 流域治水:河川管理者が主体となって行う治水対策に加え、氾濫域も含めて一つの流域として捉え、その河川流域全体のあらゆる関係者が協働し、流域全体で水害を軽減させる治水対策。

令和7年度の評価結果

〔政策評価の結果〕



〔いわて幸福関連指標の達成状況〕

指標名	単位	現状値(R3)	計画目標値(R8)	年度目標値(R6)	実績値(R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
74 インターネットの利用率	%	83.9	90.0	87.6	84.4	D	42位(5位)	46位(5位)	↓(→)
75 河川整備率	%	51.9	52.7	52.4	52.8	A	—(1位)	—(1位)	—(→)
76 緊急輸送道路の整備延長	km	32.5	42.3	39.4	40.6	A	—	—	—
77 港湾取扱貨物量	万t	506	587	523	447	D	35位(5位)	—	—
78 社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	424	424	424	414	B	—	—	—

県民の幸福度の向上に向けた県の取組や成果

X 参画



男女共同参画や若者・女性、高齢者、障がい者などの活躍、幅広い市民活動や県民運動など幸福の追求を支える仕組みが整っている岩手

令和7年度の取組と今後の取組方向

〔取組状況〕



いわて男女共同参画社会づくり表彰

男女共同参画の推進に向けた機運の醸成を図るため、男女共同参画社会づくりに功績のあった個人・団体を表彰しました。



「いわてネクストジェネレーションフォーラム」の開催

若者に選ばれる地域について、若者と様々な主体がともに考える「いわてネクストジェネレーションフォーラム」を開催しました。



家事育児シェア大作戦(家事育児シェアシート)の普及

男女が協力して家事育児を行う意識醸成を図るため、Web上で簡単に家事育児の分担状況を見える化できる「家事育児シェアシート」を活用し、官民が連携した普及に取り組みました。



いわて女性活躍認定企業等の認定

女性の活躍推進に向けて積極的に取り組む企業等を、「いわて女性活躍認定企業等」として認定しました。



高齢者社会参加活動

地域で社会貢献活動に取り組んでいるシニア団体の代表者等から取組内容を紹介いただき、地域課題を解決する手法等を共有し、また、参加者同士の交流により関係者のネットワークづくりを図りました。



多様な主体の連携・協働に向けたネットワークづくり

地域課題解決等に向けて、県内 NPO と企業等のマッチング支援を行い、連携・協働のネットワークづくりに取り組みました。

今後の主な取組内容

- 高齢者を対象としたボランティア活動等に係る相談支援や社会貢献活動をテーマとする普及啓発セミナーの開催を行うほか、老人クラブへの活動費の補助を行うことにより、高齢者のボランティア活動の促進を支援します。
- 家庭や学校、企業等の地域社会におけるジェンダー・ギャップを解消し、女性活躍を推進するため、官民で構成するいわて女性の活躍促進連携会議を通じて、固定的性別役割分担意識の解消やアンコンシャス・バイアスへの気付きや対処を促す取組を推進するほか、男女共同参画センターを拠点とした各種啓発に取り組みます。

- 「いわて若者カフェ」の相談対応を県内の大学等に出向き定期的に行うことなどにより、若者の主体的な活動を促し、県内各地域で若者が活躍できる環境づくりに取り組みます。
また、若者の主体的な活動に対する伴走型の支援や、若者が積極的に行動している姿を広く発信することにより、社会全体で若者を理解し応援する機運の醸成に取り組みます。
- 若者や行政職員を対象としたNPOとの交流会を開催し、各地域で行われている市民活動やボランティア活動、多様な主体の連携・協働の取組事例の発信、県民の理解促進と参加・参画の機運醸成に取り組みます。

令和7年度の評価結果

[政策評価の結果]

参画分野の評価結果	評価の説明
C	
いわて幸福関連指標の達成度	
	<ul style="list-style-type: none"> ● いわて幸福関連指標7指標は、達成度A、Bの指標が3指標(43%)、達成度Dの指標が4指標(57%)でした。 ● この分野の取組状況は、性別や年齢、障がいの有無にかかわらず活躍できる社会をつくる取組が進みましたが、幅広い市民活動や多様な主体による県民運動を促進する取組については、やや遅れが見られています。 ● この政策分野に係る他の主体の取組状況は、令和7年10月現在、15自治体で「パートナーシップ制度」が導入されるなど、県以外の主体においても取組が推進されています。 ◎ 以上の結果及び取り巻く状況を踏まえ、Cと判断しました。

[いわて幸福関連指標の達成状況]

指標名	単位	現状値(R3)	計画目標値(R8)	年度目標値(R6)	実績値(R6)	達成度	参考)全国順位(東北順位)		
							R3	R6	比較
79 労働者総数に占める女性の割合	%	37.2	38.6	38.1	39.5	A	24位(5位)	21位(6位)	↑ (↓)
80 女性の全国との賃金格差 ^{※1} 【再掲】	%	84.4	89.4	87.0	83.3	D	44位(4位)	45位(5位)	↓ (↓)
81 障がい者の雇用率	%	2.37	2.70	2.50	2.50	A	17位(1位)	23位(1位)	↓ (→)
82 高齢者のボランティア活動比率	%	25.3	28.9	27.4	26.1	D	—	—	—
83 共働き世帯の男性の家事時間割合(週平均) ^{※2} 【再掲】	%	39.2	50.0	45.0	42.6	D	—	—	—
84 審議会等委員に占める女性の割合	%	39.9	40.0	40.0	38.4	B	19位(2位)	—	—
85 ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	15.6	20.0	18.9	13.9	D	—	—	—

※1 全国を100とした水準 ※2 女性の家事時間に対する割合

[参考指標]

調査項目	単位	現状値(R3)	R6	備考
29 管理職に占める女性の割合	%	◎ 12.3	—	5年ごとの公表



岩手県 田野畑村 北山崎

第3部

データ編

いわて幸福白書 2026

○政策分野の評価
・いわて幸福関連指標の状況、県民意識の状況及び政策分野を取り巻く状況を踏まえ、総合的に評価を行い、A B C Dの4段階で判定しています。
・「R6」は、令和6年度のいわて幸福関連指標の状況等に基づく令和7年度の評価結果を記載しています。

○達成度 各年度の目標値に対する達成率(%)に応じて右表のとおり判定しています。

○目標達成率の計算式

- ① 通常の指標 (R3現状値等から数値を上げる目標の場合) : (年度実績値-R3現状値) / (年度目標値-R3現状値) ×100
② マイナス指標 (R3現状値等から数値を下げる目標の場合) : (R3現状値-年度実績値) / (R3現状値-年度目標値) ×100
③ 維持指標等 (R3現状値等を維持する目標等の場合) : (年度実績値) / (年度目標値) ×100又は (年度目標値) / (年度実績値) ×100
※ この計算式により難しい場合は、次の計算式により算出しています。目標達成率 = (年度実績値) / (年度目標値) ×100

○補足 ※▼印の指標は、R3現状値等から数値を下げることを目標とするものです。 ※◆印の指標は、R3現状値等を維持することを目標とするものです。
※囲み数字は掲載データの年度を表しています。
※実績値が確定していないなどの理由で、達成度の判定ができない又は適当でない指標は「-」と表示しています。

達成度 目標達成率
達成 [A] 100%以上
概ね達成 [B] 80%以上100%未満
やや遅れ [C] 60%以上80%未満
遅れ [D] 60%未満

Main data table with columns: 政策分野, 指標, 現状値, 年度目標値, 実績値, 達成度, 進捗率, 全国順位, 東北順位, 出典. Includes sub-sections for Health, Family, and Education.

Large data table with columns: 政策分野, 指標, 現状値, 年度目標値, 実績値, 達成度, 進捗率, 全国順位, 東北順位, 出典. Includes sub-sections for Education and Living Environment.

政策分野	R6	関連する政策項目	指標	指標名	単位	指標の状況															出典				
						現状値 (R3)	年度目標値			計画目標値 (R8)	実績値		達成度		進捗率 (R8/R3)	全国順位			東北順位						
							R5	R6	R7		R5	R6	R5	R6		R3	R6	R3との比較	R3	R6		R3との比較			
V 安全	C	27	44	自主防災組織の組織率	%	88.5	89.8	90.4	91.0	91.8	89.1	88.7	D	D	6.1	27	-	-	2	-	-	消防防災・震災対策現況調査(消防庁)			
		28	45	▼刑法犯認知件数	件	2,507	2,560	2,470	2,380	2,300	2,856	3,319	D	D	-392.3	2	2	横ばい	2	2	横ばい	県警察本部調べ			
		28	46	▼交通事故発生件数【千人当たり】	件	1.29	1.23	1.18	1.14	1.10	1.27	1.20	D	B	47.4	4	4	横ばい	1	2	下降	警察本部統計			
		29	47	◆食中毒の発生人数【10万人当たり】	人	1.3	7.3	7.3	7.3	7.3	3.3	3.4	A	A	22.9	4	5	下降	2	2	横ばい	食中毒統計資料(厚生労働省)			
		30	48	新興感染症に対応可能な公立・公的医療機関等の数	機関	-	27	37	50	60	55	63	A	A	105.0	-	-	-	-	-	-	県保健福祉部調べ			
VI 仕事・収入	B	31~39	49	◆一人当たり県民所得の水準 ※全国を100とした水準	%	87.4 ^①	90.0 ^③	90.0 ^④	90.0 ^⑤	90.0 ^⑥	85.1 ^③	82.7 ^④	B	B	46.6	-	-	-	-	-	-	県民経済計算(内閣府経済社会総合研究所)			
		31~35	50	◆正社員の有効求人倍率	倍	0.88	1.00	1.00	1.00	1.00	0.89	0.92	B	B	45.3	34	38	下降	6	6	横ばい	一般職業紹介状況(若手労働局)			
		9,31	51	▼総実労働時間【年間】【再掲】	時間	1,761.6	1,710.1	1,684.4	1,658.7	1,633.0	1,742.4	1,729.2	D	D	25.2	44	45	下降	3	4	下降	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)			
		31	52	◆完全失業率	%	2.4	2.0	2.0	2.0	2.0	2.3	2.4	B	B	58.8	15	29	下降	2	2	横ばい	労働力調査(基本集計)都道府県別結果(総務省統計局)			
		17,18,31	53	◆高卒者の県内就職率【再掲】	%	74.1	84.5	84.5	84.5	84.5	71.5	70.8	B	B	42.1	33	-	-	5	-	-	若手労働局調査			
		31,32,49	54	女性の全国との賃金格差 ※全国を100とした水準	%	84.4	85.8	87.0	88.2	89.4	85.9	83.3	A	D	-22.0	44	45	下降	4	5	下降	全国賃金構造統計調査(厚生労働省)			
		32	55	従業者一人当たりの付加価値額	千円	5,717 ^②	5,831 ^④	5,889 ^⑤	5,947 ^⑥	6,006 ^⑦	5,976 ^④	6,093 ^⑤	A	A	130.1	27	37	⑤	42	②	4	⑤	5	下降	企業活動基本調査(経済産業省)
		32	56	開業率 ※雇用保険が新規に成立した事業所の比率	%	3.2	3.3	3.4	3.5	3.6	2.4	2.7	D	D	-125.0	24	44	⑤	41	②	4	⑤	3	上昇	雇用保険事業年報(厚生労働省)
		33,34	57	従業者一人当たりの製造品出荷額	百万円	29.6 ^②	29.9 ^③	30.3 ^④	30.6 ^⑤	31.0 ^⑥	31.7 ^③	35.9 ^④	A	A	450.0	27	37	④	27	②	4	④	2	上昇	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)
		35	58	観光消費額	億円	1,142.3 ^②	1,657.7	1,829.5	1,936.2	2,042.9	1,960.5	1,992.7	A	A	94.4	-	-	-	②	5	-	-	-	若手県観光統計	
		36,37	59	農業経営体一経営体当たりの農業総産出額	千円	5,312 ^②	5,390 ^④	5,530 ^⑤	5,670 ^⑥	5,810 ^⑦	5,562 ^④	6,353 ^⑤	A	A	209.0	-	-	-	-	-	-	-	-	生産農業所得統計(農林水産省)、県農林水産部調べ	
		36,37	60	林業就業者一人当たりの木材生産産出額	千円	4,377 ^②	4,700 ^④	4,770 ^⑤	4,840 ^⑥	4,910 ^⑦	7,098 ^④	5,320 ^⑤	A	A	176.9	-	-	-	-	-	-	-	-	生産林業所得統計(農林水産省)、県農林水産部調べ	
		36,37	61	漁業経営体一経営体当たりの海面漁業・養殖業産出額	千円	4,179 ^②	3,930 ^④	4,020 ^⑤	4,110 ^⑥	4,200 ^⑦	5,705 ^④	6,344 ^⑤	A	A	695.6	-	-	-	-	-	-	-	-	漁業産出額統計(農林水産省)、県農林水産部調べ	
		38	62	農林水産物の輸出額	億円	43.0	52.0	57.0	63.0	69.0	47.0	46.8	D	D	14.6	-	-	-	-	-	-	-	-	若手県貿易等実態調査(日本貿易振興機構)	
		39	63	グリーン・ツーリズム交流人口	千人	1,090	1,160	1,200	1,210	1,220	1,148	1,303	B	A	163.8	-	-	-	-	-	-	-	-	県農林水産部調べ	
		31~35	17	非正規職員・従業員率	%	35.7 ^②	-	-	-	-	35.5 ^④	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	就業構造基本調査(総務省)	
		31~39	18	雇用者一人当たり雇用者報酬	千円	4,043 ^①	-	-	-	-	4,101 ^③	4,191 ^④	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	県民経済計算(内閣府経済社会総合研究所)	
		31~39	19	現金給与総額【5人以上、毎月】	円	282,811	-	-	-	-	287,572	304,582	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	毎月勤労統計調査地方調査(厚生労働省)	
		36,37	20	農業産出額	億円	2,651	-	-	-	-	2,660 ^④	2,975 ^⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	生産農業所得統計等(農林水産省)	
		36,37	21	林業産出額	千万円	1,782 ^②	-	-	-	-	2,567 ^④	1,923 ^⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	農林水産統計(農林水産省)	
		36,37	22	漁業産出額	千万円	3,057 ^②	-	-	-	-	3,897 ^④	4,199 ^⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	農林水産統計(農林水産省)	
		33,34	23	製造品出荷額	億円	24,943 ^②	-	-	-	-	31,124 ^④	31,247 ^⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)	
		33	24	ものづくり関連分野の製造出荷額	億円	16,830 ^②	-	-	-	-	22,294 ^④	22,220 ^⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)	
		34	25	食料品製造出荷額	億円	3,769 ^②	-	-	-	-	4,195 ^④	4,362 ^⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)	
		34,38	26	水産加工品製造出荷額	億円	674 ^②	-	-	-	-	655 ^④	653 ^⑤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	経済センサス、経済構造実態調査(総務省・経済産業省)	
		32	27	事業所新設率	%	11.7 ^②	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	経済センサス(総務省)	
		VII 歴史・文化	A	40,41	64	世界遺産等の来訪者数	千人	417	712	805	898	991	778	807	A	A	67.9	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ
40,41	65			国、県指定文化財件数	件	574	580	583	586	589	584	588	A	A	93.3	31	30	上昇	3	3	横ばい	県教育委員会調べ			
41	66			◆民俗芸能ネットワーク加盟団体数	団体	393	393	393	393	393	422	429	A	A	54.1	-	-	-	-	-	-	-	県文化スポーツ部調べ		

政策分野	R6	関連する政策項目	指標	指標名	単位	指標の状況															出典	
						現状値 (R3)	年度目標値			計画目標値 (R8)	実績値		達成度		進捗率 (R8/R3)	全国順位			東北順位			
							R5	R6	R7		R5	R6	R5	R6		R3	R6	R3との比較	R3	R6		R3との比較
VIII 自然環境	B	42	67	◆岩手の代表的希少野生動物の個体つがい数(イヌワシつがい数)	ペア	26	26	26	26	26	24	24	B	B	46.2	-	-	-	-	-	-	県環境保健研究センター調べ
		42	68	◆岩手の代表的希少野生動物の個体つがい数(ハヤチネウスユキソウ個体数)	花茎	115 ^④	115	115	115	115	96	142	B	A	51.7	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		42	69	自然公園の利用者数 ※自然公園ビジターセンター等利用者数	千人	339	401	431	462	493	446	433	A	A	61.0	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		42	70	◆公共用水域のBOD(生物化学的酸素要求量)等環境基準達成率	%	95.7	95.7	95.7	95.7	95.7	98.3	97.4	A	A	51.1	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		44	71	再生可能エネルギーによる電力自給率	%	38.6	50.9	51.0	53.8	56.2	45.7	43.3	D	D	26.7	-	-	-	-	-	-	県環境生活部調べ
		43	72	▼一般廃棄物の最終処分量	千t	37.8 ^②	37.0 ^④	36.6 ^⑤	36.2 ^⑥	35.8 ^⑦	36.7 ^④	34.8 ^⑤	A	A	150.0	16 ^②	20 ^⑤	下降	3 ^②	3 ^⑤	横ばい	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
		43	73	▼一人1日当たり家庭系ごみ(資源になるものを除く)排出量	g	520 ^②	513 ^④	507 ^⑤	500 ^⑥	493 ^⑦	514 ^④	497 ^⑤	B	A	85.2	17 ^②	24 ^⑤	下降	1 ^②	1 ^⑤	横ばい	一般廃棄物処理事業実態調査(環境省)
		42,44	28	森林面積割合	%	74.6 ^①	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
IX 社会基盤	B	45	74	インターネットの利用率	%	83.9	86.4	87.6	88.8	90.0	83.3	84.4	D	D	8.2	42	46	下降	5	5	横ばい	総務省「通信利用動向調査」を参考
		46	75	河川整備率	%	51.9	52.3	52.4	52.5	52.7	52.7	52.8	A	A	112.5	-	-	-	1	1	横ばい	県国土整備部調べ
		46,48	76	緊急輸送道路の整備延長	km	32.5	38.1	39.4	40.5	42.3	38.3	40.6	A	A	82.7	-	-	-	-	-	-	県国土整備部調べ
		47	77	港湾取扱貨物量	万t	506	517	523	571	587	455	455	D	D	-63.0	35	36	下降	5	5	横ばい	港湾統計(国土交通省)
		48	78	◆社会資本の維持管理を行う協働団体数	団体	424	424	424	424	424	409	414	B	B	48.5	-	-	-	-	-	-	県国土整備部調べ
		X 参画	C	49	79	労働者総数に占める女性の割合	%	37.2	37.8	38.1	38.4	38.6	38.7	39.5	A	A	164.3	24	21	上昇	5	6
31,49	80			女性の全国との賃金格差【再掲】 ※全国を100とした水準	%	84.4	85.8	87.0	88.2	89.4	85.9	83.3	A	D	-22.0	44	45	下降	4	5	下降	全国賃金構造統計調査(厚生労働省)
49	81			障がい者の雇用率	%	2.37	2.40	2.50	2.50	2.70	2.42	2.50	A	A	39.4	17	23	下降	1	1	横ばい	障害者雇用状況報告書の集計結果(若手労働局)
49,50	82			高齢者のボランティア活動比率	%	25.3	26.7	27.4	28.1	28.9	27.9	26.1	A	D	22.2	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(若手県)
9,49	83			共働き世帯の男性の家事時間割合【週平均】【再掲】 ※女性の家事時間に対する割合	%	39.2	42.5	45.0	47.5	50.0	43.0	42.6	A	D	31.5	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(若手県)
49	84			◆審議会等委員に占める女性の割合	%	39.9	40.0	40.0	40.0	40.0	38.4	38.4	B	B	48.0	19	-	-	2	-	-	県環境生活部調べ
50	85			ボランティア・NPO・市民活動への参加割合	%	15.6	17.8	18.9	19.5	20.0	15.1	13.9	D	D	-38.6	-	-	-	-	-	-	県民意識調査(若手県)
49	29			管理職に占める女性の割合	%	12.3 ^②	-	-	-	-	15.0 ^④	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

いわて幸福白書 2026

岩手県政策企画部政策企画課

〒020-8570 盛岡市内丸 10-1

TEL 019-629-5509

